# 3. 青少年の教育・学び

重点目標1 青少年の健全な成長を支援する体制づくり 担当:青少年育成課

# 【目標の方針】

ひきこもり等により社会参加が困難となった若者に対し、支援する体制づくりを進めます。

青少年の非行防止、社会適応のため「大人のネットワークづくり」の体制整備及び青少年の健全な成長を阻害する悪意ある「大人の行為」を排除する取り組みを進めます。

地域に根付いた青少年を育成するため、リーダー組織の強化や小中学生の地域行事への積極的参加を促進します。

#### 【取組内容】

ひきこもり等に悩む青少年の社会参加につなげる取り組みを進めるため、ひきこもり・ニートと呼ばれる青少年及びその家族をサポートするネットワークを整備します。

青少年の非行等を未然に防止するため、青少年への声かけ活動ネットワーク事業を支援するほか、 市広報誌やインターネットを活用した広報・啓発活動を実施します。

青少年が犯罪に巻き込まれないようにするため、青少年指導員が実施する有害図書の陳列状況の確認等、コンビニや書店への立ち入り調査などをサポートします。

子どもの健全な育成活動や地域の青少年育成団体への支援活動の充実を図るため、新たに結成した青少年リーダー組織「リーディングパル」の育成を行います。

小中学生に市や地域団体のイベント等への参加意欲の高揚を図るため、くろまろキッズ制度の学校や地域へのさらなる浸透を図ります。

### 平成 26 年度の取り組み及び成果

社会参加の困難な若者をサポートする体制づくりに関して、自宅にひきこもりがちな青少年とその対応に悩む家族を対象にNPO法人青少年自立支援施設淡路プラッツによる無料相談を実施し、6人延べ9回の相談があった。

また、ひきこもり・ニートを対象に行った居場所事業(ファーストステップトライアル事業)を10回開催し、延べ83人の参加があった。

声かけ活動ネットワーク事業の一環として、各校区の青少年健全育成会及び関係団体でパトロールや「社会を明るくする運動」等を実施した。

また「安全・安心まちづくり市民大会」では、「災害に強い地域づくりをめざして」岩手県大槌 町総務部長 平野公三氏の講演を実施した。

さらに、市広報誌では「少年非行・被害防止全国強調月間・暴走族追放強調月間」、「こども 110 番月間」について周知し、青少年健全育成標語募集を市広報誌やホームページで行い、啓発活動を実施した。

悪意ある「大人の行為」を排除するため、「青色防犯パトロール車」による見回り体制を取り、 市内全域の通学路等の安全確保や、子ども見守り活動の一層の強化を図った。

また、青少年の健全な成長を阻害する有害図書やDVD等が、容易に入手できないよう防止する 仕組みができているか確認するため、青少年指導員による「青少年社会環境実態調査」をコンビ 二 28 店、書店 9 店、ビデオ店等 5 店、カラオケボックス 4 店、自動販売機 11 台、計 57 店舗等 で行った。その結果、46 店舗の販売店やビデオ店等においては、府条例どおりの販売規制が行わ れていることが確認され、また、自動販売機 11 台については仕様について調査の上、府へ報告 した。

青少年指導員連絡協議会に引き続き委託し、青少年リーダー組織「リーディングパル」の活動を支援した。リーディングパルの主な取り組みとして、小学生を対象としたキャンプの企画・運営、自治会やこども会などの地域団体への支援を行った。

現在市内で実施されている様々な講座やイベントの情報を集約してわかりやすく提供し、それらにポイントシールがもらえる「くろまろキッズ」の運用を継続した。

また、年間で 169 件の認定イベントを設定し、延べ 10,390 名の子どもたちの参加を得ることができ、くろまろキッズの継続により、地域主体の各種講座等への子どもの参加を促進することができた。

#### 各事業の実績等

### 1 . 子ども若者育成支援推進事業【継続事業】

### (1) 事業の目的

社会環境の変化などで、ニートやひきこもりなどの、社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者やその家族に対し、教育や福祉、医療、雇用など様々な分野の関係機関が連携して支援する体制を作るため。

### (2) 平成 26 年度の実績

ひきこもり()等相談の実施

自宅にひきこもりがちな青少年とその対応に悩む家族を対象に、1人1時間程度、予約制による無料相談を実施した。相談には、NPO法人青少年自立支援施設淡路プラッツの専任相談員があたった。

ひきこもり・・・ ふだんは家にいるが、「近所のコンビニに出かける」、「自室からは出るが、家からは出ない」、「自室からほとんど出ない」に該当する人を「狭義のひきこもり」とし、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」に該当する人を「準ひきこもり」と定義している。(平成 22 年子ども若者白書より)

実施日 平成 26 年 4 月 10 日 (木) 5 月 8 日 (木) 6 月 12 日 (木) 7 月 10 日 (木) 8 月 21 日 (木) 9 月 11 日 (木) 10 月 9 日 (木) 11 月 13 日 (木) 12 月 11 日 (木) 平成 27 年 1 月 8 日 (木) 2 月 12 日 (木) 3 月 12 日 (木)

実施時間 午前10時~正午(1人1時間、各回2件)

実施場所 市民交流センター

相談件数 6 名延べ9回(男性4名、女性2名)年齢層は10代1名、20代4名、30代 1名。

#### ファーストステップトライアル事業の実施

協働事業提案制度における提案に基づき、NPO法人青少年自立支援施設淡路プラッツと協働で実施した。

ひきこもりやニートの若者を対象に、居場所づくりとしての生涯学習講座やボランティア活動、職業体験などの取り組みを通じて、社会参加に向けたきっかけづくりを行った。延べ参加者数は、83名であった。

# 事業内容

日時	内 容	場所	参加者数
平成26年7月9日(水)	アート体験(絵画)	キックス	5名
8月7日(水)	楽器演奏	キックス	17 名
9月3日(水)	演劇体験	キックス	3名
9月27日(土)	和太鼓演奏	キックス	5名
10月16日(木)	料理づくり	キックス	9名
10月25日(土)	会場設営、チラシ配布	高野街道まつり会場	2名
26日(日)			
12月3日(水)	アート体験(木工)	キックス	11 名
平成 27 年 1 月 15 日 (木)	茶道体験	キックス	12 名
2月26日(木)	会社見学	つまようじ資料室	3名
3月12日(火)	ソフトボール	大師総合運動場	15 名

# (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

妥当性 A	効率性	Α	有効性	В	
-------	-----	---	-----	---	--

# 2 . 青少年指導者育成事業【継続事業】

### (1) 事業の目的

若年層による地域活動を活性化するため。

# (2) 平成 26 年度の実績

主に小学生を対象とした、宿泊体験事業を実施する中で、リーダーや小学生が、相互に学びあうことを目的に実施した。

内 容 リーディング パル登録数 23 名

定例会議年間 12回、レク部会年間 11回、キャンプ年間 2回

- ・ジュニアキャンプ 平成 26 年 8月23日(土)~24日(日)
- ・バレンタインキャンプ 平成 27 年 2月14日(土)~15日(日)
- ・事業参加者 青少年指導員 49 名 リーディング パル 21 名一般スタッフ 7 名 参加小中学生 103 名



ジュニアキャンプでの おもちゃづくり





バレンタインキャンプでは、お菓子作りの前にみんなで歯磨き講習

### (3) 事業の評価(決算成果報告書における評価)

|--|

# 3.くろまろキッズ事業【継続事業】

### (1) 事業の目的

現在市内で実施されている様々な講座やイベントの情報を集約してわかりやすく提供する とともに、小中学生の地域行事への参加を促進させることで、小中学生が地域の大人とのつな がりを深め、地域全体で子どもたちを育むことができる仕組みづくりを目的とする。

#### (2) 平成 26 年度の実績

くろまろキッズポイント制度

市や関係団体・民間が実施している講座、教室、イベント等(以下「講座等」という。)を 「認定講座」として登録し、それらに参加するとポイントシールがもらえる仕組により、小 中学生の参加意欲の高揚を図ることを目的に実施する。

このことにより、地域が主体となって実施され ている講座等にも積極的に子どもたちが参加す るようになり、地域とのつながりを深めることが できたほか、さまざまな講座を受講することで、 学校教育以外での学習意欲を高めるきっかけづ くりを行った。

# くろまろキッズ関連事業の実施

昨年度と同様に、くろまろキッズを周知さ せるため、次の関連事業を実施した。

夏休みに様々な体験をしてもらおうと、夏休 み期間中に実施されるくろまろキッズ認定イベ ントの情報等を掲載した夏休み子ども情報誌 「くろまろキッズどこいこナビ」を作成し、公 立小学校の全児童に対して約7千部を配布し



た。

### (3) 事業の評価(決算成果報告書における評価)

	妥当性	А	効率性	А	有効性	В
--	-----	---	-----	---	-----	---

#### 今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

社会参加の困難な若者をサポートする体制づくりにあたって、潜在しているひきこもり等の若者の掘り起こしが課題である。次年度以降もひきこもり等の居場所づくりや自立支援についての取り組みを進める。

青少年の非行を未然に防止するため、各校区の青少年健全育成会及び関係団体でパトロールや「社会を明るくする運動」等を実施するとともに、市広報誌では「少年非行・被害防止全国強調月間・暴走族追放強調月間」、「こども 110 番月間」について周知し、青少年健全育成標語募集を市広報誌やホームページで行い、啓発活動を実施する。

引き続き悪意ある「大人の行為」を排除するため、「青色防犯パトロール車」による見回り体制を取り、市内全域の通学路等の安全確保や子ども見守り活動の一層の強化を行う。

リーディングパル等に参加している大学生が、就職活動等により活動への参加が難しくなるなど、世代交代の周期が短い中で、組織運営の基盤を固めると共に、次代のリーダーの育成を進める。

また、次世代の青少年リーダー組織の強化や、若者の地域行事への積極的な参加を進めるため、 青少年リーダーへの研修等を実施するとともに、リーダーの人員を増やしていくための取り組み を進める。

かわちながの市こどもサイト「くろまろキッズどこいこナビ」のさらなる充実に努め、情報発信を行い、さらに小・中学生への地域でのイベントへの参加促進を図っていく。

# 3. 青少年の教育・学び

重点目標 2 子どもたちの課外活動の機会や場の提供

### 【目標の方針】

放課後や休日に、子どもたちが安全にいきいきと過ごせる場を提供します。

一人ひとりが自らの可能性を育み、その能力を発揮できるよう、地域で子どもたちに様々な体験 活動の場を提供します。

担当:青少年育成課

### 【取組内容】

放課後児童会の対象児童を試行的に5年生まで拡大します。また、放課後の子どもの居場所として、「放課後子ども教室」を全校で実施します。

休日の子どもの居場所として、夏休みに市民交流センター(キックス)を利用した「夏休み子ど も教室」、日曜日に河内長野駅周辺で、「駅前子ども教室」を実施します。

青少年育成団体による地域の特色を生かした遊び・生活・自然・文化等を通じた多様な体験活動の場や機会を提供します。

### 平成 26 年度の取り組み及び成果

放課後児童会において、試行的に対象児童を5年生までに拡大した。平成27年度に実施する6年生までの受け入れを想定し、児童数の増加にあわせて、待機児童を出さないよう、クラスの増設等の整備を実施した。

また、放課後児童会設置基準について厚生労働省令に基づき条例の整備を行った。

さらに「放課後子ども教室」については、放課後の子どもたちの安全・安心な活動場所や居場所づくりのため、ボランティアなどの協力を得て運営を行い、地域社会全体で子どもの豊かな成長を育んだ。

「夏休み子ども教室」は、ボランティアや外部組織等の協力を募り、スタッフの確保を図るとともに、地域主導の教室や各団体との協働により実施プログラムの充実を図った。

また「駅前子ども教室」は、市民、関係団体との協働をさらに進めるとともに、当日でも子どもたちが気軽に参加できる企画を実施した。

ほかにも、駅前子ども教室を大学の授業における実践の場として提供する試みを行った。

青少年育成団体による体験活動の実施にあたり、若者層への地域活動への参加の働きかけを強化している。

#### 各事業の実績等

# 1.放課後子ども教室事業【継続事業】

### (1) 事業の目的

放課後の子どもたちに安全・安心な活動場所・居場所を設け、ボランティアの方など地域社会全体で子どもの豊かな成長を育む。

#### (2) 平成 26 年度の実績

放課後子ども教室

放課後主に5時間目終了後、子どもたちに安全・安心な活動場所を設け、地域の方々の協力を得て工作や読み聞かせ、レクリエーションなど様々な体験の機会の提供するため、放課後子ども教室を開催した。

放課後子ども教室への参加は、自由選択型の事前申込制で、参加費用は無料としている。

実施場所	実施曜日	実施回数	対象学年	延べ参加者数 (平均参加者数)
千代田小学校	隔週 金曜日	10 回	2 年生	477名(47名)
長野小学校	隔週 木曜日	6 回	2 年生	109名(18名)
小山田小学校	隔週 火曜日	13 回	2 年生	422名(32名)
天野小学校	隔週 金曜日	12 回	2 ~ 3 年生	365名(30名)
高向小学校	隔週 金曜日	12 回	2~3年生	358名(29名)
三日市小学校	隔週 木曜日	6 回	2 年生	191名(31名)
加賀田小学校	隔週 木曜日	11 回	2 年生	238名(21名)
天見小学校	毎週 月・金曜日	51 回	1~3年生	1,102名(21名)
楠小学校	隔週 金曜日	11 回	2 年生	409名(37名)
石仏小学校	隔週 木曜日	10 回	2 年生	213名(21名)
川上小学校	隔週 火曜日	11 回	2 年生	328名(29名)
美加の台小学校	隔週 木曜日	11 回	2 年生	398名(36名)
南花台小学校	隔週 木曜日	12 回	2 年生	241名(20名)
合	計	176 回	-	4,851名(27名)



工作教室



レクリエーション教室

# 放課後子ども教室運営協議会

事業の推進に向けて、学校関係者やPTA関係者・市民の代表などで構成される「放課後子ども教室推進事業運営協議会」を開催した。

日 時:平成27年2月26日(木) 午後7時30分~午後9時10分

場 所:市民交流センター3階 会議室1

参加者:7名、事務局 6名

### 放課後子ども教室交流会

平成 26 年度は、放課後子ども教室に携わっていただいた 21 のボランティア団体の方との意見交換・交流のため、「放課後子ども教室交流会」を開催した。

日 時:平成27年1月14日(水)午後1時~午後4時

場 所:市民交流センター3階 会議室1 参加者:ボランティア団体代表者23名、

事務局: 4名、大阪府担当者 1名

### (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

### 2. 夏休み子ども教室事業【継続事業】

# (1) 事業の目的

夏休みの子どもたちの安全で安心な活動場所の確保を図り、学校・学年の隔てなく、体験学習の機会を提供する。

# (2) 平成 26 年度の実績

夏休み子ども教室(くろまろキッズ全員集合)の開催

キックスを2日間借り切り、イベント形式で開催した。本事業は、青少年育成課だけではなく、市人権協会や国際交流協会などと協働したほか、多くの企業協力により実施した。また、大阪千代田短期大学生がボランティアとして、大阪大谷大学生が地域研究実習生として参加した。自由参加の企画を増やしたことから参加者の増加に繋がった。

日 時 : 平成26年8月29日(金) 30日(土) 午前10時~午後5時

場 所 :市民交流センター(キックス)全館借切

プログラム内容:44 プログラム、参加者:約2,670 名、参加ボランティア:204 名 体験型プログラム…手作りランチでカフェ気分、みんなで歌おう、スポーツチャンバラ など

鑑賞型プログラム…たぶんかバンド、マジックショー、超低温の世界 など。







みんなで歌おう

### (3) 事業の評価(決算成果報告書における評価)

- 1		-				
	妥当性	В	効率性	А	有効性	В

### 3 . 駅前こども教室事業【継続事業】

#### (1) 事業の目的

月1回 日曜日に、河内長野駅前のさまざまな場所を子どもたちのフィールドとして活用し、さまざまな体験の機会を提供、子どもたちが「駅前」の現実の街の中でいろいろな体験を通して「生きる力」を身につけることを目的とする。

# (2) 平成 26 年度の実績

駅前子ども教室(エキマエ)の開催

河内長野駅前という実際の街の中を活動フィールドとして、月1回日曜日に、ボランティアの方の協力を得て、街の中ならではの体験活動を提供し、子どもたちの主体性や創造力、コミュニケーション力といった「生きる力」を育むことを目的として実施した。

また、学生など若い世代と共に子どもたちの生きる力を育むことにも取り組み、大学の授業における実践の場として、駅前子ども教室を利用してもらい、新しい体験型の教室を開催した。

実施日:平成26年5月18日、6月15日、7月20日、10月5日、11月16日、12月

23 日 平成 27 年 2 月 15 日

実施時間:午前10時~午後4時

実施場所:子ども交流ホール、にぎわいプラ座、ノバティホール、府営長野公園など

講座内容:30 講座 参加者:935 名 参加ボランティア:181 名

自然を体験する教室…エコロ助となぞときウォッチ(大阪府大) 長野公園の竹で遊ぼう! など

その他の体験教室…うちわでチャレンジ夏祭り!(大阪大谷大学)、基礎体操にチャレンジ、ハンドベルを体験しよう!クリスマスソング(大阪千代田短期大学)など



長野公園の竹であそぼう



ハンドベルで体験しよう

### (3) 事業の評価(決算成果報告書における評価)

妥当性	安白性
-----	-----

### 4 . 放課後児童会運営事業【継続事業】

# (1) 事業の目的

保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校1~3年生の児童を対象に、適切な遊び及び 生活の場を与えて健全な育成を図るため、児童福祉法(昭和22年法律第164号)第21条の 10に規定する放課後児童会健全育成事業として河内長野市放課後児童会を運営する。

# (2) 平成 26 年度の実績

保護者が労働等により昼間家庭にいない小学1年生から5年生(4・5年生受け入れは試行)までの児童を対象に、適切な遊びや生活の場を提供することで、健全な児童の育成に努めた。市内全児童会において待機児童を出さずに運営を行った。1クラスの定員を超える場合はクラ

スを増やすことで対応している。

平成 26 年度当初は、長野・三日市・千代田児童会では 3 クラス、加賀田・小山田・南花台・楠・美加の台児童会では 2 クラスで運営を開始。その後、児童数の増加に対応して、長野・楠児童会で年度途中にクラスの増設を行った。

運営する指導員は非常勤嘱託員を配置。また、障がいの程度に応じて、アルバイト職員を児 童会に加配し、障がい児に対するきめこまやかな支援を行った。

# 児童会一覧(平成26年5月1日現在)

児童会名	クラス数	児童数(内、土曜登録者数)
長野放課後児童会	3	133名(34名)
三日市放課後児童会	3	108名(25名)
加賀田放課後児童会	2	58名(15名)
千代田放課後児童会	3	93名(34名)
高向放課後児童会	1	34名(10名)
川上放課後児童会	1	42名(7名)
小山田放課後児童会	2	78名(20名)
南花台放課後児童会	2	60名(19名)
天野放課後児童会	1	20名(4名)
美加の台放課後児童会	2	45名(5名)
楠放課後児童会	2	85名(29名)
石仏放課後児童会	1	45名(9名)
合 計	23	801 名 (211 名)

### (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

### 今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

放課後児童会に関しては、「河内長野市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」を遵守し、待機児童ゼロ・適正集団規模を守った安全な児童会運営を目指し、児童数の増員に見合うよう可能な限り施設整備を進める。

また、年度途中に高学年の利用人数が大きく変化するため、変化に対応できる運営・整備に努める。

「放課後子ども教室」の全校実施を実現し、安定的に継続していくために、地域主導や業務委託による教室の実施に向けた環境づくりに取り組む。

また、「夏休み子ども教室」では、夏休みの子どもたちの安全で健やかな活動場所の確保のため、引き続き全小学生を対象として体験学習の機会を提供する。

「駅前子ども教室」は、子どもたちがまちの中で様々な体験を通して「生きる力」を身につけることを目的として、引き続き月1回程度、日曜日に実施する。

青少年育成団体において地域で行事やイベントを企画運営するなど、青少年と地域住民の交流

を図ることにより、青少年の健全育成を図る。

# 4.成人の教育・学び

重点目標 1 文化活動の活性化

# 

市民の郷土愛を育み、市民としてのアイデンティティを確立するため、伝統文化の普及啓発及び 継承を図ります。

担当:文化・スポーツ振興課

市民文化の普及を進めます。

文化会館の市民利用を促進します。

### 【取組内容】

古典講座の開催等をとおして、古典に触れる機会を創出します。

市民の文化活動の発表の場として市民文化祭を開催します。

文化会館において、文楽やオペラ等の舞台芸術に出会う事業を開催するとともにミュージカル・ スクールなど市民参加型事業を開催します。

アーティストを派遣するアウトリーチ事業()を教育分野での充実を図るとともに、病院や福祉 関係機関等においても実施します。

アウトリーチ事業 アーティストの派遣を通じて芸術文化に触れる機会を創出する事業。

# 平成 26 年度の取り組み及び成果

古典講座「きく・みる・まなぶ 河内長野の古典」を4回シリーズで開催し、152 名の参加者を得た。

第60回河内長野市文化祭を、市立文化会館等において、10月30日~11月9日の間にて実施し、 9,472名の来場者があった。

また、河内長野市文化連盟による「夏休み子ども体験教室」等の開催について事業支援を行った。 古典芸能鑑賞会「文楽」公演、文化振興事業として市民参加の創作ミュージカルである「高向玄理(たかむこのくろまろ) KUROMARO(くろまろ) 物語」、市民との協働で「かわちながの世界民族音楽祭」等、各種の主催・共催公演を実施した。

また、施設管理については、適切な管理と保全に努め、快適な設備環境の整備に努めた。

アーティストを派遣するアウトリーチ事業について、教育分野として、小・中学校6校で河内長野市文化連盟の協力も得て実施するとともに、特別養護老人ホーム等9施設においても実施した。 さらに学校外での取り組みとして、大阪芸術大学との連携による「奥河内エデュケーションプログラム」を実施した。

#### 各事業の実績等

#### 1.文化振興事業【継続事業】

(1) 事業の目的

各種の文化芸術振興事業を通じて、市民が豊かな文化芸術的環境に身を置き、優れた文化活動に触れることによって、心豊かな市民生活に寄与するために実施する。

(2) 平成 26 年度の実績

文化祭事業(事業運営を河内長野市文化連盟に委託)

市民が日頃行っている芸術・芸能・文化活動の成果を一般に公開し、市民文化の創造と振興を図った。

会 期 平成 26 年 10 月 30 日 (木)~平成 26 年 11 月 9 日 (日)

会 場 市立文化会館、市民交流センター他 入場者 9,472人

内容・書展ほか20部門で実施

- ・体験教室の実施(フラワーデザイン手作りコーナーほか3教室)
- ・第 60 回を記念して「磨き上げられた芸術・芸能の祭典」と題し、舞台・展示の各部門による合同企画及び古典の日普及啓発事業「古典の日に源氏物語を語る」 講演会の実施

# 芸術振興事業 (事業を河内長野市文化連盟に委託)

優れた伝統文化に触れ、日本の伝統芸能への認識を高め次代に継承していくことを目的として開催した。

日 時 平成26年9月27日(土) 昼夜2公演

会場市立文化会館大ホール、

入場者 955人(昼687人 夜268人)

内容「文楽公演」昼公演・曽根崎心中・義経半年後、夜公演・菅原伝授手智鑑・鉛安

### 奥河内アートエデュケーションプログラム事業

内容	開催日	会場	参加者数
茅葺きアートコンサート	平成 26 年 6月 8日(日)	滝畑ふるさと文化財 の森センター	120 人
親子陶芸教室	平成 26 年 7月 13日(日)	キックス 創作工房	27 人
スキルアップ研修(3回)	平成26年8月5日(火)他	キックス 会議室2他	27 人
奥河内子ども写生大会	平成 26 年 8 月 23 日 (土)	滝畑地区 他	43 人
子育てを考える 親の目・	平成 26 年 10 月 4 日 (土)	あいっく 子ども交	40 l
子の目	平成 20 年 10 月 4 日 ( 工 )	流ホール	13 人

# きく・みる・まなぶ 河内長野の古典 ~ 邦楽~

	内 容	開催日	時間・会場	参加者数
第1回	邦楽の歴史と種類	平成 26 年 10 月 27 日 (月)		47 人
第2回	邦楽における弾き物 (弦楽器)	平成 26 年 11 月 10 日 (月)	13:30~15:00 ラブリーホール	33 人
第3回	囃子としての打ち物	平成 26 年 11 月 25 日 (火)	ギャラリー	37 人
第4回	吹き物(管楽器)の魅力	平成 26 年 12 月 9 日 (火)		35 人

### (3) 事業の評価(決算成果報告書における評価)

妥当性	Α	効率性	Α	有効性	Α

# 2 . 文化会館管理運営事業【継続事業】(抜すい)

# (1) 事業の目的

本市文化活動の拠点である文化会館をその目的に合った効率的・効果的な維持管理・運営を行

うことにより、市民の文化芸術活動を推進する。また、文化施設の設備を良好な状態に保ち、施 設利用者の快適な環境を維持する。

### (2) 平成 26 年度の実績

文化会館管理運営事業

#### 文化振興事業

文化・芸術の香り高いまちづくりを総合的に推進し、市民の豊かな心と個性ある文化活動 を育むことを目的として、市立文化会館の指定管理委託に文化振興事業を含めて委託した。

事業数 128、公演回数 487 回、観客・参加者 57,030 名

主な事業内容は以下のとおり。

地域の芸術文化の振興を図る事業(公益目的事業)

- ・河内長野発の優れた舞台芸術作品を創造し発信する事業(創造発信型事業)
- ・市民との協働により芸術文化を創造する事業(市民参画型事業)
- ・年間を通じて行う長期ワークショップ型事業 (教室運営型事業)
- ・地域の芸術家を発掘し育成する事業(芸術家育成型事業)
- ・多種多様な芸術文化に出会う機会を提供する事業(芸術文化普及型事業)
- ・アーティストの派遣を通じて芸術文化に触れる機会を創出する事業(アウトリーチ事業)
- ・地域の芸術文化活動を多様な角度から支援する事業(芸術文化活動活性化支援事業)

### (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

妥当性 A	効率性	Α	有効性	Α
-------	-----	---	-----	---

#### 今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

古典普及啓発事業として講座等を開催し、引き続き古典の魅力の普及推進に努める。

社会環境の変化により生涯学習の必要性が高まっており、より一層市民に広く受け入れられるよう、河内長野市文化連盟をはじめとした各種団体との連携を図りながら事業内容を充実し、裾野を拡大するよう、積極的に推進する。

市民に対し、質の高い文化・芸術にふれる機会を提供することにより、日々の生活を心豊かにし、市民による自主的な文化・芸術の発展を促し、地域文化の振興を図る。

アウトリーチ事業の内容の充実を図り、多くの市民が芸術や文化にふれる機会を創出するとともに、教育機関や福祉関係施設との連携を強化し、引き続き事業の推進を図る。

# 4.成人の教育・学び

重点目標 2 多文化共生への支援

### 【目標の方針】

平成 25 年度に策定した「河内長野市多文化共生推進プラン」を踏まえ、外国人も地域社会の一員として充実した生活を送ることができるよう支援を行うとともに、市民への多文化共生理解を進めます。

担当:文化・スポーツ振興課

### 【取組内容】

多言語による「外国人のための生活ガイドブック」の作製等、多言語による情報提供を進めます。 「日本語サロン」を開催するなど、在住外国人への日本語支援を行います。

在住外国人を小・中学校に講師として派遣し、多文化共生()理解を進めます。

日本の伝統文化を伝えるため、古典などを学ぶ機会の充実を図ります。

多文化共生:国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築きながら地域社会の構成員として共に生きること

### 平成 26 年度の取り組み及び成果

外国人も地域社会の一員として充実した生活が送れるように、3ヶ国語による外国人のための生活ガイドブックを作成した。

また、在日外国人に大規模災害時避難所生活の一部を体験し、言語や生活様式の違いなどから起こる課題を地域の方々と共有する機会として、地域一斉防災避難活動に参加した。

地域在住者で日本語が不自由な外国人や帰国者のために日本語サロンを開設した。

子どもたちの多文化に対する理解を進めるため、市内小中学校の総合学習の時間に行なわれている「国際理解授業」へ外国人講師を派遣した。

また、一般市民に向けて、「世界情勢ここに注目!」をテーマに講演会を実施し、世界を取り巻く政治情勢から、最近話題にのぼっている地域とテーマを取り上げるなど、国際的な視点を養うことができる機会を提供した。

古典講座「きく・みる・まなぶ 河内長野の古典」を4回シリーズで開催し、152名の参加者を得た。また、第60回河内長野市文化祭や 古典芸能鑑賞会「文楽」公演を実施した。

# 各事業の実績等

# 1.国際化推進事業【継続事業】

#### (1) 事業の目的

国際化の潮流が加速する現状において、在住外国人が良好な市民生活を送ることができ、市 民も今後の国際化社会に柔軟に適応できるようになることをめざす。

### (2) 平成 26 年度の実績

#### 国際化推進事業

多文化共生の観点から、在住外国人が本市で安心して生活できるように、また地域社会で地域住民と円滑な生活ができるように、各課で作成している資料を翻訳し「外国人のための生活ガイドブック」を作成した。

翻訳内容 「国保で元気」「ごみと資源の分け方・出し方」等

翻訳言語 英語・韓国語・中国語



上段「国保で元気」

下段「ごみと資源の分け方・出し方」(左から 韓国語版、中国語版、英語版)

# (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

妥当性	Α	効率性	Α	有効性	Α
-----	---	-----	---	-----	---

### 2.国際交流協会関係事業【継続事業】

### (1) 事業の目的

市民の自主的な運営による国際交流協会の活動等に対し、必要な支援を通して、国際交流の促進・国際理解の高揚、外国人とともに暮らせる地域づくりなど、本市の市民による国際交流の推進に寄与する。

# (2) 平成 26 年度の実績

#### 国際交流協会支援事業

河内長野市の国際交流の要としての河内長野市国際交流協会が実施する市民主体によるさまざまな交流事業に対して、財政的な支援を行うため、河内長野市国際交流基金運用益金を充当するなど国際交流事業補助金を同協会に助成し、同協会を中心に市と市民(会員)との協働により事業を実施した。

- · 交流活動事業
  - お互いの文化を理解し、心とこころをつなぐ交流会や市民が異文化を知る機会を提供した。
- ・日本語支援活動事業 在住の外国人をはじめ、国籍を問わず日本語学習支援や情報交換等の事業を行った。
- ・多文化共生活動事業

誰もが安心して暮らせる環境づくりや、お互いが助けあえる、顔のわかるネットワークづくりのための事業を行った。

・語学交流活動事業

各母国語の講師による語学レッスンをとおして交流し、学んだ知識を翻訳や通訳に生かせるよう語学クラブなどを開催した。

# ・青少年育成活動事業

青少年を対象に、早い時期から国際的感覚を身に着けられるような事業を行った。

#### ・広報活動事業

国際交流協会会員に対し、同協会の活動内容の報告やイベント情報の周知を行った。

### ・カーメル市交流活動事業

姉妹都市提携を結んでいるカーメル市 (アメリカ合衆国インディアナ州)との交流事業を 実施した。

### 平成 26 年度河内長野市国際交流協会会員数(単位:口数)

区分	口数
個人 ( 学生 ) 会員	2
個人(一般)会員	406
家族会員	83
法人会員	18
計	509

### 国際交流基金

#### 国際交流基金の運用状況

区分	金額(円)	備考
平成 25 年度末基金残高	105,116,000	
平成 26 年度末基金残高	105,306,000	
平成 26 年度運用利子収入	472,614	国際交流事業に充当

### (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

妥当性	Α	効率性	В	有効性	Α

### \_3 . 文化振興事業【継続事業】(抜すい)

### (1) 事業の目的

各種の文化芸術振興事業を通じて、市民が豊かな文化芸術的環境に身を置き、優れた文化活動 に触れることによって、心豊かな市民生活に寄与するために実施する。

# (2) 平成 26 年度の実績

文化祭事業(事業運営を河内長野市文化連盟に委託)

市民が日頃行っている芸術・芸能・文化活動の成果を一般に公開し、市民文化の創造と振興を図った。

会 期 平成 26年10月30日(木)~平成26年11月9日(日)

会 場 市立文化会館、市民交流センター他 入場者 9,472人

内 容・書展ほか20部門で実施

・体験教室の実施(フラワーデザイン手作りコーナーほか3教室)

・第60回を記念して「磨き上げられた芸術・芸能の祭典」と題し、舞台・展示の各部門による合同企画及び古典の日普及啓発事業「古典の日に源氏物語を語る」 講演会の実施

### 芸術振興事業(事業を河内長野市文化連盟に委託)

優れた伝統文化に触れ、日本の伝統芸能への認識を高め次代に継承していくことを目的として開催した。

日 時 平成 26 年 9 月 27 日 (土) 昼夜 2 公演

会場市立文化会館大ホール、

入場者 955人(昼687人 夜268人)

内容「文楽公演」昼公演・曽根崎心中・義経千本桜、夜公演・菅原伝授手習鑑・釣女

### きく・みる・まなぶ 河内長野の古典 ~ 邦楽~

	内 容	開催日	時間・会場	参加者数
第1回	邦楽の歴史と種類	平成 26 年 10 月 27 日 (月)		47 人
第2回	邦楽における弾き物 (弦楽器)	平成 26 年 11 月 10 日 (月)	13:30~15:00 ラブリーホール	33 人
第3回	囃子としての打ち物	平成 26 年 11 月 25 日 (火)	ギャラリー	37 人
第4回	吹き物(管楽器)の魅力	平成 26 年 12 月 9 日 (火)		35 人

# (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

妥当性 A	効率性	Α	有効性	Α
-------	-----	---	-----	---

### 今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

外国人のための生活ガイドブックの内容の更新、充実を図り、引き続き多言語による情報提供に 努める。

今後も日本語サロンを継続的に開催し、在日外国人等への日本語への支援を推進する。

河内長野市国際交流協会との連携を図り、国籍や民族などが異なる人々がともに地域社会の構成 員として共に生きる多文化共生社会の構築につながるよう、様々な取組みを推進する。

古典普及啓発事業として各種講座等を開催し、引き続き古典の魅力の普及推進に努める。

# 4.成人の教育・学び

重点目標3 市民のニーズに応じた学びの機会・場の提供 担当:文化・スポーツ振興課 【目標の方針】

学びを通じ、人と人とのつながりをひろげ、豊かなまちづくりや自分自身の幸せな生活を実現するため、多様な体験活動の場や学習機会の提供を進めます。

地域や学習関連施設等との連携を進め、学習機会の充実を図ります。

市民のニーズに合った学習情報の提供を進めます。

# 【取組内容】

くろまろ生涯学習プランに基づき、河内長野市民大学「くろまろ塾」の市民へのよりいっそうの 浸透を図るとともに、体験活動を含めた学習機会の多様化・充実を図り、いつでも・どこでも・だ れでも学べる環境を整備します。

地域や NPO、近隣大学、高等学校、その他学習関連施設と連携し、様々な学習を提供します。 学習を通じてできた学習グループ、人と人との繋がりづくりを支援します。

市民の生涯学習活動を支援するため、学びやんネット()など学習情報の収集と提供を行います。 学びやんネット:河内長野市内の生涯学習情報(民間情報含む)を一括管理し、インターネットと街頭 情報端末を通して情報提供をリアルタイムにお届けするシステムのこと。

### 平成 26 年度の取り組み及び成果

河内長野市民大学「くろまろ塾」において年間 342 講座におよぶ、多種多様なくろまろ塾認定 講座を実施し、累計受講者数 7,498 名の参加を得た。

桃山学院大学、大阪府立大学、大阪千代田短期大学、市内4高校等と連携して講座を開催し、 市民に対し、様々な学習の提供を行った。

くろまろ塾カフェにおいて塾生同士の語らいの場を設け年9回実施し、114名の参加を得た。 学びやんネットにてインターネットにおける学習情報を提供し、1,023件(平成26年度末時点)の登録情報を発信した。

### 各事業の実績等

### 1 . 市民交流センター管理運営事業【継続事業】

#### (1) 事業の目的

館の施設維持管理・改善を図り、様々な学習ニーズに応えることができ、利用しやすい施設づくりに努める。館の設備を良好な環境に保ち、館利用者等の快適な環境を維持する。

# (2) 平成 26 年度の実績

市民交流センターの管理運営

生涯学習の拠点として、また図書館や国際交流・男女共同参画・青少年・勤労市民福祉などの多機能複合施設として、常に良好な状態で機能し利用できるよう指定管理者を通じ維持管理を実施し、多くの市民の利用を得た。

河内長野市民大学「くろまろ塾」の充実

指定管理者にてくろまろ塾事務局機能の一部を担い、市とともに継続した講座の実施とさらなる充実を目指し、地域学講座(まちづくり、歴史) 大学連携講座(地域と経済、エネルギー、

数学と宇宙、福祉、親子教室)高校連携講座(地域での取り組み) 大学リレー講座(薬の効果と副作用、宇宙、環境)など多彩な学習機会の提供に努めた。

#### 運営状況

- ・くろまろ塾生数 1,310 名(平成 26 年度末)
- ・全認定講座数 342 講座

くろまろ塾本部企画講座 56 講座、その他の認定講座 286 講座

- ·累計受講者数 7,498 名
- ・学位取得者数 累計 61 名

くろまろ塾市民博士(600単位到達者) 13名 (うち本年度到達者 10名)

くろまろ塾市民修士(400単位到達者) 13名 (うち本年度到達者 9名)

くろまろ塾市民博士(600単位到達者) 35名 (うち本年度到達者 18名)

# (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

#### 2 . 生涯学習支援事業【継続事業】

### (1) 事業の目的

生涯学習を始める(深める)ためのきっかけづくり。 学習の成果を社会に活かすためのきっかけづくり。 生涯学習に対する正しい理解の普及。

#### (2) 平成 26 年度の実績

刊行物等による生涯学習情報の提供

生涯学習を始めるためのきっかけづくり、学習の成果を社会に活かすための機会の提供、 また生涯学習に対する正しい考え方の普及のため、市民に生涯学習情報の情報提供を幅広く 行った。

# ・「河内長野市まちづくり出前講座」の実施

市政への理解を深めるとともに、学習機会の充実及び意識啓発を図り、もって生涯学習によるまちづくりの推進に寄与するため、メニューに基づき河内長野市民の求めに応じて市職員を派遣し、情報提供・事業・施策・制度などを説明する「河内長野市まちづくり出前講座」を実施した。

メニュー数 32 部署 57 メニュー

申込件数 107件

実施会場地域の自治会館、公民館、コミュニティ

センターなど

受講者 延べ 5,653人

・「みんなのクラブ活動」誌の発刊

団体・サークル情報をさらに効果的に発信するため、市内で活動をしている団体の活動内容や連絡先などを記載した、平成 26 年度版「みんなのクラブ活動」誌を閲覧用冊子及びダ



イジェスト版パンフレットにして発刊した。

印刷枚数 閲覧用 70 部(市内の公共施設に配置) ダイジェスト版 1,000 部 掲載団体数 277 団体

「くろまろ情報誌」による情報提供

くろまろ塾を運営するにあたって官民問わず各方面から収集した講座やイベント等の情報をまとめた「くろまろ情報誌」を、前期・後期の年2回に分けてそれぞれ作成した。公民館等の市内公的施設や関係各課へ配布し、広く河内長野市民向けの生涯学習情報を積極的に提供した。

・「くろまろ塾講座ガイド」の送付

くろまろ塾認定講座情報の周知のために、6月・10月の市広報紙への折込みにより「くろまろ塾講座ガイド」を各々48,000部配布し、情報提供に努めた。

・市民交流センターにおける情報提供

市民交流センター内の情報プラザにおいて、ポスター、チラシ、パンフレット、啓発冊子などの掲示・配架・配布による情報提供を行った。

また、生涯学習ボランティアとの協働により広報紙に「学びやんだより」として生涯学習情報記事を年2回(8月、3月)掲載した。

# (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

妥当性 A	効率性	Α	有効性	В
-------	-----	---	-----	---

# 今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

生涯学習社会の推進に向けて、生涯学習推進計画に基づき、今後とも市民に対し生涯学習情報を発信し、学びの機会を提供するとともに、市民が学びの成果を活かしていくことができるような仕組みづくりに継続して取り組んでいく。

学びが地域でのまちづくりに繋がるよう地域や NPO などの各種団体、学校と連携を深め、地域での市民の公益活動・ 社会活動・福祉活動・ボランティアなどの様々な活動への参加を促すよう努める。

学びやんネットによる生涯学習情報の充実、講座企画の見直しによる人的交流機会の創設や、 市民公益活動支援センター「るーぷらざ」との連携により、各学習グループや人と人との繋がり づくりの支援に努める。

市内における様々な知識・技能を有する人材を発掘し活用するため、学びやんネットの充実や庁内での情報共有、「るーぷらざ」との連携強化に取り組む。

# 4.成人の教育・学び

重点目標4 市民スポーツの振興・スポーツ施設の充実 担当:文化・スポーツ振興課 【目標の方針】

市民が身近な場所で、手軽に楽しくスポーツ活動ができるように、スポーツ環境づくりを進めます。

市民の体力づくりなどのために手軽に楽しく行えるスポーツ活動の機会を提供するとともに、スポーツ選手の競技力向上のための大会などを開催します。

市民が利用しやすく、安全にスポーツに親しめる環境づくりのために、スポーツ施設の効率的な 運営と施設整備を進めます。

### 【取組内容】

総合型地域スポーツクラブの組織強化と安定した運営への支援を行うとともに、スポーツ団体や地域団体等と連携・協力を行い、市民が自ら身近なところで主体的にスポーツ活動に取り組めるようスポーツの振興を図ります。

市民誰もがスポーツに親しむことができる機会を提供するため、市内スポーツ団体を総括する河内長野市総合スポーツ振興会と定期的な協議や連携を行い、種目別大会などのスポーツ事業を開催するとともに、小学生駅伝大会やシティマラソン大会の事業の充実を図ります。

スポーツ施設の利用手続きが、いつでもどこからでもできる「オーパス・スポーツ施設情報システム」による効率的な運営を継続します。

市民総合体育館をはじめとするスポーツ施設の機能維持のための改修や市民ニーズに対応したスポーツ施設の充実のため、(仮称)下里人工芝球技場整備を計画的に進めます。

# 平成 26 年度の取り組み及び成果

市民が身近なところでスポーツ活動に取り組めるよう、以下の事業を実施した。

- ・スポーツを通じての体力づくりやスポーツへの参加機会を提供するため、スポーツ普及啓発 事業として、体力測定会や小学生駅伝大会を開催した。
- ・南河内地区のスポーツ振興に努めるとともに、スポーツ精神の高揚を図るため、地区 6 市 2 町 1 村共催により、南大阪駅伝競走大会を開催した。
- ・市民総合体育館トレーニング室を安全かつ効果的に利用してもらうため、トレーニング講習 会や相談を実施した。
- ・市民のスポーツへの参加機会の提供及びスポーツ精神の高揚を図るため、バドミントンなど 23種目の市民スポーツ大会を開催した。
- ・スポーツに親しめる環境づくりのため、学校体育施設の開放事業を行った。
- ・スポーツ精神の高揚を図るため、大阪府総合体育大会(10種目)に選手を派遣した。また、 市民のスポーツへの参加機会の提供のため、河内長野シティマラソン大会を開催した。

市民が気軽にスポーツに親しめる環境づくりのため、総合型地域スポーツクラブの設立支援を行った。

市民サービスの向上のため、スポーツ施設の管理運営業務を指定管理者である総合スポーツ振興会と連携を図りながら実施するとともに、効率的な運営を継続するために「オーパス・スポーツ施設情報システム」の運用を行った。

施設の機能回復や機能充実を図るために、大師庭球場の整備を実施した。また、新たな市民二

ーズに対応するため、(仮称)下里人工芝球技場の整備計画を進めた。

# 各事業の実績等

# 1.スポーツ普及啓発事業【継続事業】

### (1) 事業の目的

スポーツ推進体制の整備を図るため、スポーツ推進委員を委嘱し、スポーツ推進事業の連絡 調整や実技指導等を行うことでスポーツの普及啓発を図る。

### (2) 平成 26 年度の実績

スポーツ普及啓発事業

スポーツに親しむことができる機会を提供することにより、市民のスポーツ活動のきっかけをつくり、スポーツを通じた市民の体力づくりの推進に努めた。

・体育の日事業

体育の日の行事として、体力測定会を実施した。

実施日 平成 26 年 10 月 13 日 (月)

場 所 市民総合体育館

参加者 35 人





# ・第2回小学生駅伝大会

駅伝という競技を開催することにより、小学生の体力向上や青少年の健全な育成に努めた。

実施日 平成26年12月7日(日)

場 所 関西サイクルスポーツセンター(サイクリングコース)

参加者 159人(31地ーム)

低学年信 12 チーム・高学年の部 11 チーム、学校区対抗の部 7 チーム・ファミリー の部 8 チーム





# (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

	妥当性	Α	効率性	Α	有効性	В
--	-----	---	-----	---	-----	---

# 2 . スポーツ振興事業【継続事業】

# (1) 事業の目的

広く市民が自主的に参加できるようなスポーツ行事を実施し、市域または地域におけるスポーツの機会を確保することにより、スポーツの普及と競技水準の向上を図る。

### (2) 平成 26 年度の実績

総合型地域スポーツクラブの設立支援

東中学校区総合スポーツクラブの教室などの活動に対して支援した。

# 【教室】

太極拳平成 26 年 4 月 6 日 ~ 平成 27 年 3 月 29 日計 42 回インディアカ平成 26 年 4 月 6 日 ~ 平成 27 年 3 月 23 日計 21 回ヨ ガ平成 26 年 4 月 1 日 ~ 平成 27 年 3 月 31 日計 44 回

### 【講演会】

実施日 平成27年1月17日(土)

会 場 くすのかホール

内 容 『健康に生きる!・・・スポーツの意義』

講師 相澤 徹 氏(むこがわスポーツクリニック院長)







# (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

妥当性 C	効率性	С	有効性	С	
-------	-----	---	-----	---	--

# 3.河内長野シティマラソン事業【継続事業】

### (1) 事業の目的

ランニング意欲の高揚を図り、参加機会を提供する。

# (2) 平成 26 年度の実績

河内長野シティマラソン大会

市民スポ・ツの普及・振興に努めるとともに、参加者の健康体力の増進と親睦を図るため、第60回河内長野シティマラソン大会を開催した。

実施日 平成27年2月15日(日)

会 場 長野小学校ほか

コース [ハーフ]中村池公園~滝畑折返~長野小学校

「 10km ] 中村池公園~日野折返~長野小学校

[ 5 km ] 中村池公園~高向折返~長野小学校

[ジョギング]中村池公園~錦町~長野小学校

# <第60回マラソン大会参加者数>

単位:人

部門	申込者	出場者	部門	申込者	出場者
ハーフ男子 29 歳以下	135	101	ハーフ女子 60 歳以上	11	6
ハーフ男子 30 歳代	282	196	10 km男子 39 歳以下	134	117
ハーフ男子 40 歳代	355	282	10 km男子 40 歳以上	249	211
ハーフ男子 50 歳代	268	216	10 km女子 39 歳以下	83	72
ハーフ男子 60 歳代	128	89	10 km女子 40 歳以上	81	72
ハーフ男子 70 歳以上	27	14	5 km一般男子	91	72
ハーフ女子 29 歳以下	49	23	5 km一般女子	97	58
ハーフ女子 30 歳代	64	40	5 km中学男子	62	89
ハーフ女子 40 歳代	51	38	5 km中学女子	33	22
ハーフ女子 50 歳代	44	26	ジョギング	357	323
			合 計	2,601	2,067

# (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

妥当性 A	効率性	Α	有効性	Α
-------	-----	---	-----	---

# 4 . 南河内スポーツ振興事業【継続事業】

# (1) 事業の目的

南河内地区各市町村と連携を図るとともに、広く自主的に参加できるような行事を実施し、広域的なスポーツの振興を推進する。

# (2) 平成 26 年度の実績

南河内スポーツ振興事業

南河内地区のスポ・ツ振興に努めるとともに、 スポーツ精神の高揚を図るため、南河内地区6市 2町1村共催により、第58回南大阪駅伝競走大 会を開催した。

実施日 平成27年2月1日(日)

場 所 PL周回コース(富田林市)

参加者 236 チーム



### (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

# 5.学校体育施設開放事業【継続事業】

### (1) 事業の目的

校区住民の自発的、自主的なスポーツの場を提供し、市民スポーツの振興を図るとともに地域の身近なコミュニケーションづくりに寄与する。

# (2) 平成 26 年度の実績

# 学校体育施設開放事業

地域住民が自主的にスポ・ツができる場を提供し、地域スポ・ツの振興を図るとともに、地域のコミュニケ・ションづくりのため、学校体育施設(市立小・中学校の運動場及び小学校の体育館)の開放を実施した。

# [ 運動場 ]

開放実施校 18校(実績)

開放実施回数 3,863回(1回あたり概ね3時間)

利用者数 256,885人

# [体育館]

開放実施校 12校

開放実施回数 4,239回(1回あたり概ね3時間)

利用者数 118,156人

# 【開放校と開放種目】

種目		体育館							動場		
	バ	バ	=	莚	だ健	#	ソ	フトボー	ル	*	軽運
学校名	バドミントン	レーボール	ミニバスケットポール	武道(柔道を除く)	バトントワリング等健康体操、ヨガ、	サッカー	高校生以上(男性)	高校街上(安性)	中学生以下	キックベースボール	軽スポーツ等 (基本) (基本) (基本) (基本) (基本) (基本) (基本) (基本)
	_	,,,					<u>13</u>				·
長野小学校											
小山田小学校											
三日市小学校											
川上小学校							×				
天見小学校						×	×				

工化田小学坛								
千代田小学校								
楠小学校								
天野小学校								
高向小学校								
加賀田小学校								
石仏小学校	×							
南花台小学校								
美加の台小学校								
長野中学校								
東中学校				×				
千代田中学校					×	×		
西中学校								
加賀田中学校								
南花台中学校								
美加の台中学校								

別途、旧南花台西小学校跡地施設を地域にのみ開放した。

# (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

妥当性 A	効率性	Α	有効性	В
-------	-----	---	-----	---

# 6 . スポーツ施設整備事業【継続事業】

# (1) 事業の目的

市民が身近にスポーツに親しむことができるよう、計画的にスポーツ施設の整備を行い、施設機能の維持・充実を図る。

### (2) 平成 26 年度の実績

施設を安全に使用できるよう施設の機能回復や機能充実を図るために、下記の事業について スポーツ環境の整備に努めた。

・大師庭球場整備工事(40,328,280円)

安全なスポーツ環境を整えるためにテニスコート及びフェンスの整備を行った。

また、新たなニーズへの対応として、下里町公共用地に(仮称)人工芝球技場を整備するための用地の取得及び整備工事の契約等を行った。

- ・(仮称)下里人工芝球技場用地の取得(1,195,870,139円) 先行取得していた土地特別会計より再取得を行った。
- ·(仮称)下里人工芝球技場整備工事(518,400,000円)
- ・(仮称)下里人工芝球技場の整備工事に伴う契約を行った。



# (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

妥当性 A	効率性	Α	有効性	В
-------	-----	---	-----	---

# 7.スポーツ施設管理運営事業【継続事業】

### (1) 事業の目的

スポーツ施設情報システムを運用し、市民に簡単便利なサービスを提供するとともに、スポーツ施設の管理運営の円滑化を図る。

### (2) 平成 26 年度の実績

施設利用状況

スポーツ施設を安全に使用できるよう施設の維持管理を行い、スポーツ環境の整備に努めた。 単位:人

	施設	利用	利用率		施設	利用	利用率
	川也 成	人数	(%)		/儿世 『又	人数	(%)
市民	<b>!総合体育館</b>	145,973	-	寺ケ	池公園野球場	27,879	32.3
,	技場・第2競技場・会			天野	少年球技場	12,583	46.4
	室・卓球場・トレーニ			武道		33,626	67.5
ン	′グ室)			此	. KI	33,020	07.5
	大師総合運動場	85,588	56.8	庭	寺ケ池公園庭球場	32,785	74.5
運	下里総合運動場	42,102	21.5	球場	大師庭球場	9,556	45.9
動	赤峰市民広場	118,411	-	場	荘園庭球場	13,261	29.5
場場	(野外ステージ・控			プ	寺ケ池公園プール	13,650	-
-70	室・会議室・研修			1	   烏帽子形公園プール	7,032	_
	室)			ル	一一一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	7,002	_
キャンプ場	赤峰市民広場	775	-			E44 126	
ジ場	岩湧野外活動広場	915	-		合 計	544,136	-

(利用率は使用時間を利用可能時間で割って算出)

オーパス・スポーツ施設情報システム利用状況(メディア別)

オーパス・スポーツ施設情報システムを引き続き運用し、スポーツ施設の運営を円滑にする とともに、利用手続きの簡素化・迅速化により、サービスの向上を図った。

メディア別	音声	街頭端末	インターネット	携帯ウェブ	業務端末	合計
利用件数	1,636	1,592	43,713	1.585	5,618	54,144
構成比(%)	3.02	2.94	80.73	2.93	10.38	100.0

# スポーツ振興事業

・市民スポーツ大会の開催(計23種目 参加者総数 約7,200人)

バドミントン、バスケットボール、サッカー、ソフトボール、テニス、バレーボール、ゲートボール、少年軟式野球、ソフトテニス、卓球、軟式野球、剣道、少林寺拳法、居合道、陸上競技、水泳、柔道、ペタンク、グラウンドゴルフ、インディアカ、体操フェスティバル、軽スポーツ、スポンジテニス

・大阪府総合体育大会派遣事業(総出場者数 377人)

参加種目 サッカー、ソフトテニス、ソフトボール、卓球、テニス、軟式野球、バスケットボール、バドミントン、剣道

### 市民スポーツ教室開催事業

- ・トレーニング講習会(実施回数 16 回、受講者数 282 人) 市民総合体育館トレ - ニング室の安全かつ効果的な利用を図るため、講習会を開催した。
- ・トレーニング相談(実施回数 12 回、相談者数 54 人) 市民総合体育館トレーニング室利用者に対し、トレーニング方法などについて、専門トレーナーが指導・相談を行った。
- (3) 事業の評価(決算成果報告書における評価)

妥当性
-----

#### 今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

総合型地域スポーツクラブと連携しクラブの活動の充実を行うとともに、学校体育施設開放事業の整備を促進するなど、市民が気軽にスポーツを行う場の環境づくりを進め、地域スポーツの振興を図ることが今後の課題である。

市民の競技スポーツ志向の低下に伴うスポーツ人口の減少が見られるため、「競う」意識の高揚が課題である。市総合スポーツ振興会と協議や連携を行い、引き続きスポーツ事業を開催し、小学生駅伝大会やシティマラソン大会の事業の充実を図る。

「オーパス・スポーツ施設情報システム」を引き続き運営し、市民がいつでもどこからでもスポーツ施設の利用手続きを行うことができる効率的な環境を継続する。

市内各スポーツ施設の老朽化が進行している中、計画に基づき順次整備を進める必要が生じているものの、実施には多額の予算が伴い、当初の計画通りの補修や整備が困難な状況であるため、今後、整備計画の見直しを図る必要がある。

(仮称)下里人工芝球技場の整備計画については、平成28年6月の施設オープンに向けて工事を進めるとともに、オープニングに係る準備やオープン後の管理運営などの環境整備に取り組む。また、指定管理者職員の研修などの実施により、来場者受付などの施設管理面における市民サービスの更なる充実を図る。

# 4.成人の教育・学び

<u>重点目標 5 社会教育の推進及び市民の学習活動支援体制の充実 担当:ふるさと交流課</u> 【目標の方針】

地域の課題解決や社会の様々な課題解決のため、現代的課題に関する市民の学習機会の充実を進めます。

市民の学習活動を活性化させるため、公民館等の社会教育施設において、市民の学習活動の支援を行います。

市民が持つ知識や技術、経験を、子どもや地域に還元するため、啓発及び人材の育成に取り組みます。

### 【取組内容】

多様化する社会的課題に対応する、人権や環境等の学習機会を提供します。

市民の学習活動を支援するため、公民館の効率的・効果的な運営を行います。

人材育成の視点をもった講座の実施や地域の人材の発掘に努めます。

# 平成 26 年度の取り組み及び成果

地域にある社会教育施設である公民館が、単独で事業を企画・実施するだけではなく、地域の 諸団体や小中学校と連携し、地域課題に関する講座等を開催した。

公民館施設の貸し出しにより、市民によるクラブや団体の自主的学習活動の場を提供し、活動の支援を行った。

市内の生涯学習・社会教育に関わる施設等で構成される「ミュージパークネット()」の運営を支援し、「市民まつり」や「ミュージパークフェスタ」等で、河内長野の魅力を市内外にPRするとともに、各施設間の人材交流を行った。

また、構成施設への施設見学や構成施設からの出前授業を一覧にし、冊子にした、学習プログラムを作成し、市内幼小中学校園に配布した。

市内の生涯学習や社会教育に関わるミュージアム施設等が加盟。相互に課題や目標を共有して連携を深め、新たな学習や体験機会を創出することにより、市民の生涯学習や教育の発展、各施設を活性化することを目的とした組織。

# 各事業の実績等

### 1.地域の学習拠点づくり事業【継続事業】

# (1) 事業の目的

公民館が地域における社会教育活動の学習拠点となるような事業展開を図る。

### (2) 平成 26 年度の実績

公民館が地域での学習拠点となるよう、統一のテーマで実施する「公民館リレー講座」や各地域の課題について考える講座等を実施した。

また、地域住民を講師に迎えた講座や、小学校への「出前講座」も実施した。

公民館名	講座名等	のべ参加者数
千代田公民館	「災害対応カードゲーム」ほか7講座	1,224名
川上公民館	「男の木工講座 幼児用椅子づくり」ほか 13 講座	266 名

三日市公民館	「エンディングノートの書き方」ほか5講座	201 名
加賀田公民館	「加賀田ほのぼの楽校」ほか 10 講座	414 名
高向公民館	「布ぞうり作り」ほか 10 講座	221 名
天見公民館	「救命講習会」ほか 11 講座	274 名
天野公民館	「やさしい手話体験教室」ほか 12 講座	167 名
南花台公民館	「大丈夫?悪質商法の手口」ほか 12 講座	195 名

# 加賀田ほのぼの楽校



# 救命講習会



# (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

妥当性 A	効率性	Α	有効性	В
-------	-----	---	-----	---

# 2.いきいき講座【継続事業】

# (1) 事業の目的

河内長野市民の社会教育活動を推進するため、現代的課題に関する学習機会を提供する。

# (2) 平成 26 年度の実績

市民の社会教育活動を推進するため、現代的課題に関する学習機会として、「いきいき講座」を開催した。

前期 テーマ『笑いは心のサプリメント』

講座	参加者数	
「自分流の庭師人生~~ケチからの脱出~」	146 名	
「枚岡神社の『お笑い神事』 ~健康は感謝の祈りと笑いから~」	149 名	
「笑いグスリ処方します ~笑いの医学的効用~」	155 名	
「今から始める老い支度 ~後半人生を楽しく、すてきに生きる~」	140 名	
「生涯青春 ~ 今、求められている地域力~」	130 名	

# 後期 テーマ『今 昔 ものがたり』

講座	参加者数
「任侠 吉良の仁吉 ~活動写真鑑賞と映画よもやま話~」	135 名
「目からウロコの家族制度 ~古墳時代の夫婦事情~」	138 名
「老いの達人 ~転ばぬ先の杖~」	132 名
「銀幕とわたし ~"老いを生きる"のビデオを観て~」	135 名
「日本の心 舞に魅せられて ~舞は祈り 人々にうるおいと幸せを~」	188 名

# (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

# 3 . 一般対象事業【継続事業】

# (1) 事業の目的

市民を対象に、社会教育を推進するための現代的課題に関する学習機会を提供する。

# (2) 平成 26 年度の実績

公民館において、市民を対象に、社会教育を推進するための現代的課題に関する学習機会を提供した。

公民館名	講座名等	のべ参加者数
千代田公民館	「初心者向け陶芸教室」ほか3講座	508 名
川上公民館	「歌声広場」	220 名
三日市公民館	「老後の生活設計を考える」ほか3講座	153 名
加賀田公民館	「ふろしき包みに挑戦!」ほか2講座	90 名
高向公民館	「古典基礎講座」ほか1講座	78 名
天見公民館	「しめ縄づくり」ほか3講座	75 名
天野公民館	「琴の演奏会~邦楽の調べ~」ほか2講座	66 名
南花台公民館	「今さら聞けない冠婚葬祭のマナー」ほか4講座	190 名

# (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

妥当性 A	効率性	Α	有効性	В
-------	-----	---	-----	---

# 4 . 公民館施設管理運営事業【継続事業】

### (1) 事業の目的

河内長野市民の生涯学習活動支援のための貸館業務及び河内長野市民が様々な学習ができるよう主催事業の企画運営を行う。また、地域住民へ図書を貸し出すため、図書室の運営を行う。

# (2) 平成 26 年度の実績

公民館利用状況(団体区分別)

館名	千代田	川上	三日市	加賀田	高向	天見	天野	南花台	合計	前年度 合計
公民館主催 クラブ	27,726	5,006	17,359	8,797	8,257	3,925	5,080	7,640	83,790	87,812
公民館登録 団体	6,421	2,150	3,245	0	0	82	797	2,995	15,690	15,443
一般団体	5,540	2,575	5,218	1,844	521	1,407	1,404	1,017	19,526	18,956
青少年団体	310	0	119	0	0	0	0	0	429	588
高齢者団体	0	0	102	0	0	0	0	0	102	104

女性団	体	0	0	0	0	0	0	0	189	189	236
市関係	係	6,678	1,755	2,323	2,058	2,453	1,347	829	1,663	19,106	20,248
その他に	団体	53	85	0	20	182	0	0	9	349	339
個。	人	15,722	5,236	11,169	7,721	5,564	3,167	3,831	17,861	70,271	66,212
合言	計	62,450	16,807	39,535	20,440	16,977	9,928	11,941	31,374	209,452	209,938

# 公民館男女別利用人数

館	名	千代田	川上	三日市	加賀田	高向	天見	天野	南花台	合計	前年度 合計
男	性	14,439	6,347	11,148	6,507	3,912	3,003	2,720	10,518	58,594	57,878
女	性	48,011	10,460	28,387	13,933	13,065	6,925	9,221	20,856	150,858	152,060
合	計	62,450	16,807	39,535	20,440	16,977	9,928	11,941	31,374	209,452	209,938

### 公民館図書室利用状況

館名	千代田	川上	三日市	加賀田	高向	天見	天野	南花台	合計	前年度 合計
入室者数(人)	15,722	5,236	11,169	7,626	5,226	3,167	3,824	17,861	69,831	65,884
新規登録者数 (人)	77	31	51	87	27	22	25	122	442	441
貸出人数(人)	10,256	3,250	7,987	4,822	2,394	1,658	1,999	12,767	45,133	45,960
貸出冊数(冊)	24,734	8,985	19,647	12,765	6,062	5,137	5,498	33,126	115,954	119,767
返却冊数(冊)	21,351	9,143	15,657	13,344	6,195	5,562	5,311	35,990	112,553	114,535

# (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

# 5 . ミュージアム施設等ネットワーク事業【継続事業】

# (1) 事業の目的

市内の生涯学習に関わるミュージアム施設等の相互の連携を深め、それぞれの施設がもつ魅力や社会貢献活動を通じて、新たな学習や体験機会を創出することにより、河内長野市民の生涯学習の推進、施設の活性化、さらには地域振興を図る。

# (2) 平成 26 年度の実績

各種フェアー等へ出展参加し、ミュージパークネットを広くPRした。







市民まつり

フルルマーケット

くろまろキッズ全員集合

# (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

# 今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

地域の諸団体と連携する地域課題に関する講座等の開催に関しては、課題の抽出や調整等が難 しい場合があったが、今後も市民ニーズや地域のニーズを的確に把握し、地域の課題解決のため の事業を積極的に実施する。

公民館施設をより効率的・効果的に運営するためには、事業への参加や施設の利用にあたって、今まで以上に新規の参加者等を増加させる工夫が必要である。

公民館の利用が活発になるよう、ホームページや公民館だよりなどを通して、公民館の利用方法や活動内容などの広報を、さらに積極的に行う。

生涯学習、社会教育の角施設の利用者数の増加・活性化や、学習プログラムの利用を図るため に、ミュージパークネットに対する市民の認知度を上げることが課題である。

今後は、PRチラシの配布や各種イベントへの参加をより積極的に行うとともに、ミュージパークネットを構成する施設間で連携し、子どもたちにより広い教育の機会を提供するための学習プログラムの充実に取り組む。

# 4.成人の教育・学び

# 重点目標6 家庭教育支援の充実

#### 【目標の方針】

親学習や家庭の教育力向上のための学習機会を充実します。

家庭の教育力向上のため、地域と連携した取り組みを進めていきます。

学校やPTAと連携した取り組みをさらに進めていきます。

### 【取組内容】

子育て中の保護者や市民を対象に、子どもとの関わり方やしつけなどについての学習機会の提供を行います。

小学生や中学生を対象に、親と子の関係や将来親となることについて考えるため、親学習( )講座を実施します。

地域と連携した取り組みを推進するための「親力推進協議会」を組織化します。

学校、PTAと連携し、保護者を対象とした家庭教育講座を実施します。

親学習の推進役となる人材の育成を行います。

子どもの成長とともに親自身がまなび、育っていくこと

担当:ふるさと交流課

#### 平成 26 年度の取り組み及び成果

公民館や市民交流センターで、家庭教育支援事業や親学習についての講座など、家庭教育に関する学習機会の提供を行った。

また、新一年生の保護者を対象に、各小学校で子育て学習講座を開催した。

小中学校において、将来親となる準備期の児童・生徒を対象に親学習を実施した。

家庭、地域、学校が連携しながら、家庭の教育力向上、地域の教育力の向上をめざしてい くための協議及び活動等を行うことを目的として、河内長野親力推進協議会を設置した。

また、遊び・体験・展示などをとおし、家庭や地域の教育力の向上をめざすと共に、その 取組みを広く市民に周知するきっかけづくりとするため、啓発イベントを開催した。

PTAとの協働により、各小中学校にて家庭教育講座を実施した。

親学習を推進するため、推進役となる人材を育成する「親学習リーダー養成講座」を実施した。

#### 各事業の実績等

# 1.家庭学習・子育て支援事業【継続事業】

(1) 事業の目的

家庭での教育力の向上のため、地域での子育てを支援する。

(2) 平成 26 年度の実績

#### 親楽習事業

- ・子育て中の保護者を対象とし、市民交流センター他において、2回実施。
- ・小・中学生に対する親楽習講座の実施。

【小学校】加賀田小学校(5・6年生)・楠小学校(5・6年生)・南花台小学校(5年生) 【中学校】加賀田中学校(1年生)・美加の台中学校(1年生)・西中学校(1年生)・千代田中学校(3年生)東中学校(1年生)

- ・市PTA母親部会において実施。
- ・その他、市内単位 Р Т A 等を対象に計 7 回実施。

# 公民館における家庭教育・子育て支援事業

公民館において、子育て中の親が参加できる講演会や講習会を実施し、親同士の交流を図る機会を提供した。また、事業実施の際には、保護者が参加しやすいように一時保育もあわせて 実施した。

八尺約夕	<b>进</b> 应 夕笙	クベヤ四大学
公民館名	講座名等	のべ参加者数
川上公民館	「親子で学ぶ!子どものモノ整理整頓セミナー」	11 名
加賀田公民館	「子育てわいわいルーム」	46 名
高向公民館	「エンジョイ子育て」	18 名
千代田公民館	「親子で楽しむ絵本の会」ほか3講座	356 名
三日市公民館	「親子でつくるデコ巻き寿司」ほか2講座	195 名
天見公民館	「育ジイ・育バアの孫育ての広場」	8名
南花台公民館	「おはなし会」ほか2講座	154 名

### PTAとの協働による家庭教育講座

14 小中学校園において実施 参加者数 5,754 名

新小学1年生の保護者を対象とした「子育て学習」事業

10 小学校において実施 参加者数 約580名

# 子ども・子育て総合センターとの共催事業

就園児以上の子どもをもつ保護者を対象とするサークル活動の支援を行い、「先輩ママ」のネットワークを構築するとともに、将来的に、「先輩ママ」として、地域での子育て支援の担い手となる人材育成のための事業を実施した。「ママ cafe (カフェ) ~ ちょっぴり先輩ママのサークル活動」16名参加



親楽習



親子で楽しむ絵本の会

# (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

妥当性 A	効率性	Α	有効性	В
-------	-----	---	-----	---

### 2. PTA活動支援事業【継続事業】

### (1) 事業の目的

研修等を実施し、地域で活躍する指導者を養成する。また、市 PTA を指導のもと、各校 PTA 活動を支援し、PTA 会員の資質向上を図る。

## (2) 平成 26 年度の実績

青少年健全育成PTA活動事業

家庭・学校・地域社会の連携によって青少年の健全な育成を図る PTA活動を推進するため、 市 PTA連絡協議会()と協力して各種事業に取り組んだ。

会員研修「子どもの能力を引き出す食べ方のコツ」ほか1事業 参加者数 168 人 市 PTA 連絡協議会 河内長野市立幼稚園・小学校・中学校各 PTA をもって組織されて おり、各校園 PTA 相互の連絡協調を密にして、その健全な発展を はかることを目的とし、各種研修や情報交換等を行っている。

河内長野市PTA活動特別助成事業

児童・生徒の「心と体の健康育成活動」の推進をはかるため、市内小・中学校PTAの活動を支援した。

### 会員研修会の様子





### (3) 事業の評価(決算成果報告書における評価)

妥当性 A	効率性	Α	有効性	В
-------	-----	---	-----	---

#### 3.家庭教育支援推進事業【継続事業】

#### (1) 事業の目的

社会教育委員会議から提案された「親学・家庭教育支援について~今後取り組んでいくべきこと」を実施していく。

#### (2) 平成 26 年度の実績

平成 24 年度に社会教育委員会議から提案された「家庭教育支援の今後の方策」の実現にむけて、「親力推進協議会」を発足させ、市民レベルで家庭教育支援に取り組み、家庭や地域の教育力の向上を目指すため、その取り組みを広く市民に周知等行った。

### 子育て・孫育てフェスタの様子







# (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

妥当性 A	効率性	Α	有効性	В
-------	-----	---	-----	---

### 今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

家庭教育のための各種講座等の事業内容により参加率が異なったため、参加率の低い事業等については事業内容を工夫するなどにより、今後参加者数を増加させる工夫が必要である。

また、より多くの市民が参加を得られるような講座の企画を行うとともに、小中学校やPTAと更に連携を深め、参加者数の増加に努める。

子どもたちが親子の関係や親になることについて考える機会を持てるよう、引き続き各学校で 親学習講座を実施する。

家庭教育を支援するために、保護者だけではなく、家庭・地域・学校が連携し、「地域の子どもは地域で育てる」という意識を共有できるような取組みを進める。

発足して間もない「親力推進協議会」は、まだまだその取り組みが市民に周知等できていない ことから、広報紙を定期的に発行し、広く市民にPRを行う。

また、今後実施予定である啓発イベントについても、家庭や地域の教育力の向上を図り、参加者である市民とその趣旨に賛同する諸団体をより一層増やすため、イベント内容の充実を図る。

「親学習リーダー」について、ファシリテーション()能力の向上や子育ての現状理解等、 今後のスキルアップが必要であることから、引き続き「親学習リーダー養成講座」を実施し、 親学習をさらに進めていくとともに、活動中の親学習リーダーのスキルアップの機会を提供 する。 発言や参加を促し、話しの流れを整理する事

# 4.成人の教育・学び

重点目標7 文化遺産の保存・継承

### 【目標の方針】

指定文化財を保全するため、保存修理や継承の支援を図ります。

文化遺産の散逸を防ぐため、未指定文化財の調査を行います。

文化遺産の保存・継承について、計画の策定を進めます。

### 【取組内容】

有形指定文化財の保存修理事業への補助と支援、無形指定文化財の継承事業に対する補助を行います。

担当:ふるさと交流課

未指定文化財を調査し、現状の把握を行い、学術的・歴史的に価値の高いものについては適切な保存・継承が行えるような措置をとります。

文化遺産の効果的、効率的な修復が行えるように、「ふるさと文化財の森」を活用し、文化財修復 資財の地産地消を推進します。

地域の文化財を総合的に保存・活用するために「河内長野市歴史文化基本構想」の策定に取り組みます。

史跡烏帽子形城跡の整備を進めるため、整備実施設計を行います。

#### 平成 26 年度の取り組み及び成果

国、府、市の指定文化財について国、府と連携して適切な管理、修理事業を実施した。 また、市収蔵文化財の修復を行った。

市内の文化財の保存・活用を進めるため、指定文化財候補2件について、河内長野市文化財保 護審議会で審議を行った。

また、未指定文化財調査事業として、自治会収蔵資料調査を行った。

公益社団法人全国社寺等屋根工事技術保存会(文化財である社寺等屋根工事の技術保存とその研究向上を図り、社寺屋根工事技術者、檜皮採取者養成研修及び文化財修理用資材の確保等を行う全国組織)との共催で、檜皮採取者養成研修及び檜皮採取林の育成事業を2回実施した。

その成果として、市有林の育成を通じ、檜皮葺屋根の資材を確保し、檜皮の供給地を保全し、同時に檜皮採取者の後継者の育成に協力することができた。

・大阪府立大学からの実習生を受け入れ、学生の茅刈り体験を実施した。実習生に文化財修復資材の確保や茅場保全の重要性を認識してもらうことにより、文化遺産の維持継続のための普及啓発を推進することができた。

地域の文化財を総合的に保存・活用するため、河内長野市歴史文化基本構想等策定委員会を開催し、本市の歴史文化基本構想について審議を行った。

史跡烏帽子形城跡の整備に向け、史跡烏帽子形城跡保存管理計画・整備基本計画に基づき、実施設計を行った。

### 各事業の実績等

#### 1.指定文化財保存事業【継続事業】

(1) 事業の目的

歴史文化遺産を適切に保全し、次世代に継承する。

# (2) 平成 26 年度の実績

### 指定文化財保存事業

有形文化財の管理・修復や無形文化財の継承・保存等に対して指導助言するとともに、河内長野市文化財保護条例・同条例施行規則、文化財保存事業補助金交付要綱に基づく補助金を交付し、指定文化財の適切な保存・管理を促進した。

・国指定文化財保存事業 金剛寺金堂外 2 棟修理など 全 20 件・府指定文化財保存事業 福田家住宅管理費など 全 7 件・市指定文化財等保存事業 西代神楽保存継承など 全 13 件



史跡観心寺境内槇本院地区整備(完成状況)



史跡観心寺境内槇本院地区整備(完成状況)



### 市所蔵文化財修復事業

ふるさと歴史学習館が収蔵する貴重な資料のうち、劣化・損傷が著しい資料の修復を行った。

· 引札 2点 ・縞帳 1点

### (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

妥当性	Α	効率性	Α	有効性	Α	
-----	---	-----	---	-----	---	--

### 2. 文化財保護審議会事業【継続事業】

(1) 事業の目的

市内歴史文化遺産を評価し、適切な保護及び活用の方針を検討する。

(2) 平成 26 年度の実績

文化財保護審議会()の開催

文化財保護審議会を2回(10月・2月)開催し、市内文化財の保全・活用について審議を行った。また、新たに2員を市指定文化財候補として諮問し、1員について答申が行われた。 文化財保護審議会 文化財保護法第190条第1項、河内長野市附属機関設置条例に基づき、河内長野市の区域内に存在する文化財の保護及び活用に関して、教育委員会の諮問に応じ、意見を述べるための審議会。

・平成 26 年度 第 1 回河内長野市文化財保護審議会の開催 平成 26 年 10 月 14 日 (火)に開催し、1 件の諮問を行い、3 件の報告を行った。 諮 問

「河内長野市指定文化財候補」について - 木造不動明王立像 -

#### 報告

「河内長野市歴史文化基本構想の策定」について

「国史跡烏帽子形城跡整備実施計画」について

「平成25年度事業報告」他

平成 26 年度 第 2 回河内長野市文化財保護審議会の開催

平成 27 年 2 月 16 日 (月) に開催し、1 件の答申を受け、1 件の諮問を行い、2 件の報告を行った。

#### 答 申

「河内長野市指定文化財候補」について - 炭焼不動尊(木造不動明王立像) -

#### 諮 問

「河内長野市指定文化財候補」について - 仮称 世界図屏風 -

### 報告

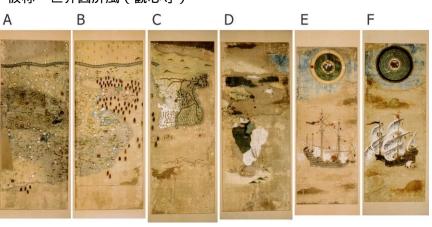
「国史跡烏帽子形城跡の整備」について

「平成27年度 河内長野市文化財事業計画(案)」について 他

炭焼不動尊(光滝寺)

光滝寺) 仮称 世界図屛風(観心寺)





### (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

妥当性 A 効率性 A 有効性 /	A
-------------------	---

### 3. 滝畑ふるさと文化財の森センター活用事業【継続事業】

#### (1) 事業の目的

文化遺産の保護に必要な植物性資材に関する技術的研修及び普及啓発活動を推進するとと もに、豊かな自然の中で地域の資産を活かした体験学習の場を提供することにより、社会教育 の振興を図る。

#### (2) 平成 26 年度の実績

文化遺産を後世に伝えていくために文化財の保存修理に地産地消の考え方を取り入れ、植物性屋根葺材の確保と資材に関する技能者の養成、また、その意義を普及啓発することを目的として、下記の事業を実施した。

### 檜皮採取者養成研修

(公社)全国社寺等屋根工事技術保存会との共催により、檜皮葺屋根の資材確保と檜皮採取者の後継者養成を目的に、檜皮採取者養成研修及び檜皮採取林の育成事業を河内長野市滝畑の千石谷市有林において実施した。

第1回 平成26年8月18日~8月29日 参加者4名

第2回 平成26年9月1日~9月12日 参加者4名

#### 茅刈り・山焼き事業

植物性屋根葺材の確保のため、滝畑地区と協働し、岩湧山茅場の茅刈り作業を平成 27 年 3 月に実施した。刈取り束数 2,100 束 )

また、翌年のカヤ育成のための山焼きを実施した。

### (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

妥当性 A	効率性	В	有効性	В
-------	-----	---	-----	---

# 4 . 歴史文化構想策定事業【継続事業】

#### (1) 事業の目的

幅広いジャンルの文化財を総合的に把握し、これらを環境も含めて総合的に保存・活用する ための方針を明確化し、文化財の保護及び活用に関するマスタープランを策定する。

#### (2) 平成 26 年度の実績

河内長野市歴史文化基本構想等策定委員会の開催

歴史文化基本構想とは、地方公共団体の文化財保護のマスタープラン(最上位の計画)として、地域の文化遺産を総合的に保存・活用していくための指針となる構想である。市内に

ある文化遺産を計画的に保存・活用するために、本構想及び本構想に基づく文化財保存・活用計画を策定する。

第3回 河内長野市歴史文化基本構想等策定委員会の開催

平成 26 年 8 月 28 日 (木)に第 3 回河内長野市歴史文化基本構想等策定委員会を開催し、「関連遺産群」「歴史文化遺産保存活用地区」「歴史文化基本構想骨子」「歴史遺産データベース」について検討を行った。

第4回 河内長野市歴史文化基本構想等策定委員会の開催

平成 27 年 2 月 16 日 (月) に第 4 回河内長野市歴史文化基本構想等策定委員会を開催し、「調査成果検討会」の報告を行い、「歴史文化基本構想素案」「歴史遺産データシステム」について検討を行った。

「ふるさと河内長野の歴史遺産~奥河内の里山集落を語る~」

歴史文化基本構想啓発のため、平成 26 年 9 月 6 日 (土)に、里山集落をテーマとしたシンポジウムを実施した。

市内歴史遺産悉皆調査の実施

・市内文化財調査記録の整理

昭和49年以降、本市が河内長野市郷土研究会等に委託して行ってきた市内文化財の調査成果について再整理を行い、データベース化を行った。

・文化財現状調査の実施

過去の調査によって把握した、市内の文化財の現状調査を一部地域で実施した。

(3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

妥当性 A	効率性	Α	有効性	Α
-------	-----	---	-----	---

### 5 . 史跡烏帽子形城跡整備事業【継続事業】

(1) 事業の目的

平成23年度に国史跡となった史跡烏帽子形城跡を適切に保存し、活用する。

(2) 平成 26 年度の実績

史跡烏帽子形城跡整備実施設計を行った。

【実施設計の内容】

平成 27 年度実施分

サイン(石柱)設置、地下遺構(礎石建物跡)の地上明示工事、史跡内の樹木の間伐等 平成 28 年度実施分

サイン・見学道の整備、史跡内の樹木の間伐、遺構補修工事、防護柵の設置工事等



### (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

妥当性 A	効率性	Α	有効性	Α
-------	-----	---	-----	---

### 今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

国、府、市の指定文化財について、引き続き、国、府と連携して適切な管理、修理事業を実施 するとともに、市収蔵文化財の修復を行う。

未調査の文化財について引き続き調査を進め、必要に応じて文化財保護審議会に諮問し、答申 を得て、指定・登録を行う。

文化財修復資財の地産地消の推進のため、引き続き植物性屋根材を使用した茅葺き屋根の資材確保と、檜皮採取者の後継者育成を実施する。

地域の文化財を総合的に保存・活用するため、河内長野市歴史文化基本構想を平成 27 年度に、本構想に基づく河内長野市文化財保存活用計画を平成 29 年度に策定し、これらに基づき本市の歴史文化遺産の保存と活用を進める。

史跡烏帽子形城跡保存管理計画・整備基本計画に基づき、平成 27 年度より、史跡烏帽子形城跡の整備工事を実施する。

# 4.成人の教育・学び

重点目標8 文化遺産の活用

### 【目標の方針】

本市の魅力を市民と共有するため、文化遺産の価値を発信します。

郷土愛を育むため、文化遺産をとおして郷土への関心を喚起します。

#### 【取組内容】

「滝畑ふるさと文化財の森センター」「くろまろ館」を拠点に、文化遺産の価値を発信します。市全体で文化遺産の価値を共有化するため、その公開・活用を進めます。

担当:ふるさと交流課

文化遺産を親しみやすいものとし、分かり易く普及啓発していくため、普及啓発図書等の教材の作成を行います。

ふるさとに愛着と誇りを持ち、地域貢献できる人材を育てるため、学校教育の場で郷土歴史学習を実施します。

郷土への関心が高まるように、生涯学習の場で文化遺産をテーマとした講演会やシンポジウムを 開催します。

#### 平成 26 年度の取り組み及び成果

学校との連携事業として、市立小学校 13 校の 3 年生~6 年生、及び市立中学校 2 校の 1 年生を対象として、文化財担当職員が郷土・歴史に関する出前授業を行った。

ふるさと歴史学習館(くろまろ館)では、小学校1・3・6年生が来館し、それぞれの学校や 学年のニーズに対応した歴史体験教室を実施した。

また、観心寺には川上小学校の児童が、金剛寺には天野小学校の児童がこども文化財解説員として参加した。

ぐるっとまちじゅう博物館等、文化遺産を活用した事業を実施し、市内の文化遺産の魅力を発 信した。

市民の郷土の歴史に対する理解が深まるよう、滝畑ふるさと文化財の森センターとくろまろ館のそれぞれの特色を生かした取り組みとして、ふるさと学体験事業など、以下の取り組みを実施した。

- ・滝畑ふるさと文化財の森センターでは、常設展示のほか、企画展示1件、旧梶谷家での第6回古民家ミニコンサートを開催し、4,910人の入場者があった。
- ・ふるさと歴史学習館では、常設展示のほか、延べ 11 回の企画展示を実施し、企画展示に関連した講座など、5 回の講座や体験教室を実施し、11,123 人の入館者があった。

くろまろ館所蔵資料を活用したデジタルアーカイブ事業として、同館が収蔵する紺屋型紙と引札のデジタル画像を使用した製品(便箋・一筆箋・封筒・しおり)を作成・販売し、多くの人に、型紙や引札の魅力に触れる機会を提供することにより、郷土に対する理解の推進を図ることができた。

また、新たに304枚の紺屋型紙のデジタル画像を作成し、次の活用に備えることができた。 河内長野市内の遺跡について市民にもわかりやすく解説した図書(普及啓発図書)として、『高 野街道』を刊行し、図書館及び市立小中学校に配布するとともに、市内の書店で販売した。

### 各事業の実績等

### 1.ふるさと歴史学習館事業【継続事業】

### (1) 事業の目的

郷土資料を収集し、地域に伝わる文化財の重要性を啓発する。文化財愛護の精神を醸成するために必要な事業を実施する。

# (2) 平成 26 年度の実績

ふるさと歴史学習館展示

常設展示と特別展示室やエントランス、市内他施設を利用し、延べ 11 回の企画展示を実施した。

# ・エントランス展示

展示内容	期間	来館者数等
「歴史クイズ むかしの	7月19日(土)~10月22日(水)	クイズ体験者数 481 人
道具」		
「くろまろの郷 高向」	11月1日(土)~11月30日(日)	期間中入館者数 910 人
「ひな祭りの小さな台所」	2月8日(日)~4月5日(日)	期間中入館者数 1,908 人

### ・収蔵庫展示

展示内容	期間	来館者数等
「節句織」	4月16日(水)~5月31日(土)	期間中入館者数 1,611 人

### ・特別展示室展示

展示内容	期間	来館者数等
「狭山藩と河内長野」	5月21日(水)~7月13日(日)	期間中入館者数 1,818 人
「柳原白蓮が詠んだ河内	7月20日(日)~9月23日(火)	期間中入館者数 3,917 人
長野の風景」		
「河内木綿と紺屋の型紙」	11月22日(土)~1月18日(日)	期間中入館者数 780 人
「星に祈る~観心寺 節分	1月24日(土)~2月28日(土)	期間中入館者数 821 人
星祭~」		
「ありがとう綿の里親さ	3月7日(土)~4月12日(日)	期間中入館者数 2,363人
<b>ω!</b> 」		

### ・他施設展示

展示内容	場所等	期間
くろまろ館 PR 展示「綿を	図書館 1 階展示コーナー	5月7日(水)~6月2日(月)
育ててみませんか?」		
「柳原白蓮と河内長野の	ラブリーホールギャラリ	10月22日(水)~10月24日(金)
風景」	- (入場者数 631人)	

# ふるさと歴史学習館講座

企画展示に関連した講座など、5回の講座や体験教室を実施し、計306人の参加者があった。

### ふるさと歴史学習館施設管理運営業務

市内で行った発掘調査の整理作業と共に、市民の郷土理解を深めるため、歴史・芸術・民俗などに関する資料を収集し、保管・展示を行った。展示など館運営にはボランティアの協力を受けた。平成 26 年度の入館者は 11,123 人であった。

### (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

│ 妥当性 │  A  │ 効率性 │  A  │ 有効性 │  A
------------------------------------

### 2 . 滝畑ふるさと文化財の森センター活用事業【継続事業】

### (1) 事業の目的

文化遺産の保護に必要な植物性資材に関する技術的研修及び普及啓発活動を推進するとと もに、豊かな自然の中で地域の資産を活かした体験学習の場を提供することにより、社会教育 の振興を図る。

### (2) 平成 26 年度の実績

滝畑ふるさと文化財の森センター運営管理

資料館

入館者数 4,910 人

研修宿泊施設管理運営業務

利用者内訳	市内		ते	外	合計		
利用有内訳	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	
こども会	7	296	2	51	9	347	
小・中学校	15	782	5	232	20	1,014	
高校・大学	2	47	20	851	22	898	
幼稚園・保育所	13	236	20	721	33	957	
青少年育成団体	18	1,077	18	339	36	1,416	
その他	32	906	46	1,306	78	2,212	
合 計	87	3,344	111	3,500	198	6,844	

### (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

妥当性 A	効率性	В	有効性	В
-------	-----	---	-----	---

### 3.「文化財のまち」啓発事業【継続事業】

### (1) 事業の目的

「文化財のまち 河内長野」を広く市内外に発信し、本市の歴史や文化遺産に関心を持ってもらえるように働きかける。

### (2) 平成 26 年度の実績

デジタル画像製品作製・販売

ふるさと歴史学習館が収蔵する「紺屋型紙」を高精細デジタル画像化したデータを使用して、デジタル画像製品(便箋・一筆箋・封筒・しおり)を作製し、文化財デジタル資料の活用を行った。

また、ふるさと歴史学習館・市役所情報センター・滝畑ふるさと文化財の森センター等で販売を行い、「文化財のまち」としての普及啓発を行った。





便箋・一筆箋・封筒「よろけ縞に松竹梅散らし文」

しおり「牡丹唐草文」

### (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

妥当性 A	効率性	Α	有効性	Α
-------	-----	---	-----	---

#### 4. 歴史遺産活用事業【継続事業】

### (1) 事業の目的

市内の歴史文化遺産を活用した事業を実施し、河内長野市民にふるさとへの愛着心を育み、市外へ向けて市の魅力を発信する。

### (2) 平成 26 年度の実績

「史跡烏帽子形城跡の活用!」「中世都市長野と烏帽子形城」

史跡烏帽子形城跡について、その歴史的価値を市民と共有し、史跡保存に対する意識を啓発するため、平成26年6月7日(土)及び7月13日(日)にシンポジウムを行い、延べ200人の参加を得た。

「ふるさと河内長野の偉人・高向玄里」

市政 60 周年・くろまろ没後 1360 年を記念して、平成 26 年 10 月 13 日 (月) に、高向玄理 を顕彰したシンポジウムを行い、延べ 248 人の参加を得た。

#### 文化財ボランティア養成講座

平成 26 年 9 月 25 日(木)~10 月 16 日(木)に全 4 回にわたり、文化財の保護・活用等に参加する文化財ボランティアを養成するための講座を実施した。延べ 87 人の参加者を得た。

ぐるっとまちじゅう博物館 2014

市域全体を博物館とみたて、各年度で地域を設定して文化財を現地公開する「ぐるっとま

ちじゅう博物館」について、平成 26 年度は長野神社・烏帽子形城跡・烏帽子形八幡神社・増福寺・高向神社を対象として実施した。平成 26 年 11 月 13 日 (木)~11 月 16 日 (日)の間で延べ 3,018 人の参加者を得た。

### 郷土・歴史学習事業

学校との連携事業として、市立小学校 12 校の 3 年生~6 年生・市立中学校 4 校の 1 年生を対象として、年間 42 回、文化財担当職員が小中学校で郷土・歴史の解説を行った。

#### 文化財普及啓発図書刊行事業

発掘調査の結果をもとに市内の文化財についてより理解を深めることを目的とした普及啓 発図書を刊行した。

・シリーズ河内長野の遺跡9「高野街道」

## (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

妥当性 A	効率性	Α	有効性	Α
-------	-----	---	-----	---

### 今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

くろまろ館等の施設において、歴史文化遺産の普及啓発を進めるため、各施設の特性を生かし た体験メニュー等、多くの人にとって魅力ある企画の立案を行い、事業を実施していく。

市における文化遺産の価値をさらに共有化するため、各種事業等を通じて、公開と活用を進める。

今後も継続して、文化財デジタル資料の二次的利用や活用を展開し、「文化財のまち」としてふるさとの文化財の魅力の普及啓発を進める。

学習成果の発表等を実施できたのが一部の小学校に留まるため、このような機会をさらに広げていく事が必要である。

ふるさとに対する関心と愛着心をいっそう育み、地域に貢献できる人材を育てるため、今後も郷 土歴史学習等を継続して実施する。

市内の文化遺産について理解を深めるため、 今後も継続して普及啓発図書の刊行や講演会・シンポジウム等の開催を行っていく。

# 4 . 成人の教育・学び

# 重点目標 9 市立図書館や公民館図書室の充実

### 【目標の方針】

図書館機能の充実を目的に児童サービスやレファレンスサービスを始めとする各種サービスの 向上を図ります。

担当:図書館

「読書のまち河内長野」実現を目的に図書館や公民館図書室の資料を整備充実し、その利用を促進します。

郷土歴史資料や行政資料の収集保存をすすめ、その普及啓発と活用を図ります。

#### 【取組内容】

メールマガジンの発信やレファレンスデータベースの公開などITを活用した図書館サービス機能の充実をすすめます。

地域文庫、幼稚園・保育所及び放課後児童会等への団体貸出の利用を促進するため、資料集配送 を継続実施します。

郷土歴史資料の普及啓発と活用を図るため、検索ツールの整備や関連講座及び資料の展示を行うとともに保存修復を行います。

文部科学省告示に基づく「図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針」を策定し、運営の状況に関する点検及び評価を行います。

#### 平成 26 年度の取り組み及び成果

毎月1回メールマガジンを発行し、新着資料の情報や図書館の行う講座・イベントに関する情報の発信を行った。

また、レファレンスデータベースに登録された事例の一部公開も行い、累計で26件となった。 市内小中学校や幼稚園、保育所や放課後児童会に対し、約8,000冊の資料配送を行った。

貴重な郷土資料の修復保存を行うとともに、修復後の資料の館内展示を行った。

また、本市域の歴史を知ることができる古文書を読み解く講座や関連展示も行い、多くの市民に郷土についてより深く知る契機となった。

文部科学省の「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」に基づき、より良いサービスをめざす図書館の事業評価である「河内長野市立図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針」を策定し、これに基づき図書館事業の自己点検評価を行った。

また、図書館協議会による評価も行い、その結果を公表した。

#### 各事業の実績等

### 1.館内サービス事業【継続事業】

(1) 事業の目的

利用者の満足度を高めること。図書館の利用を促進すること。

(2) 平成 26 年度の実績

年間330日開館(1月の特別開館日を含む)し、537,109人の入館者があった。 平成26年度は、特別整理期間を8日間に短縮(従前は10日間)し、除籍した蔵書については 資料の有効活用のため、図書館に来館した市民に対してリサイクル本として無償で提供した。個人貸出(自動車文庫の貸出点数を含む)は1,024,404点、予約・リクエストサービスに対応した件数は171,200件(Web予約116,603件含む)。自館での対応だけでなく府立図書館や近隣の図書館などから延べ6,572冊の図書を借り受けて資料提供に努めた。

## (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

妥当性	Α	効率性	А	有効性	Α	
-----	---	-----	---	-----	---	--

### 2.図書館ネットワーク事業【継続事業】

#### (1) 事業の目的

市内のどこに住んでいても等しく図書館サービスを受けることができるような環境を整備 する。また市全体としてバランスの取れた無駄のない蔵書を構成する。

#### (2) 平成 26 年度の実績

公民館図書室及び自動車文庫のネットワークを活かし、図書館遠隔地の市民にも図書館資料の提供を進めた。

また、自動車文庫の利用促進のため、ステーションの近隣自治会に対してPRチラシを送付し、利用促進を図った。放課後児童会、幼稚園、保育所(園)、小学校、中学校のほか、河内長野市立子ども・子育て総合センター(あいっく)や福祉施設などにも図書館資料の集配送を実施した。

他にも、夏休みお楽しみパックの配送など、放課後児童会での子どもたちの読書活動を支える配送も行った。

# (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

#### 3 . 公民館ネットワーク事業【継続事業】

#### (1) 事業の目的

どこででも本の予約・貸出・返却ができること。

図書館システムとしてバランスのとれた蔵書をつくること。

#### (2) 平成 26 年度の実績

市内全域でのサービスを目指し、公民館図書室とのネットワークの充実と活用に努めた。また、学校や地域の団体等への集配送サービスを実施することにより、市内の読書環境の向上に努めた。

公民館図書室利用の利便性向上への取り組み

公民館図書室の窓口において、資料の貸出・返却の受付のほか、予約・リクエストの受付及 びレファレンスの受付も行い、図書館遠隔地の市民の利便性と読書環境の向上・充実を図った。 図書館と公民館図書室との相互貸借状況 図書館と各公民館を結ぶ連絡車を運行し、図書館の蔵書を公民館に取り寄せて利用者に提供する相互貸借や、公民館事業などのために図書館の蔵書を一定期間公民館に貸し出す団体貸出などを行った。

# 図書館と公民館との相互貸借状況

(単位:冊)

	公民館	千代田	川上	天見	加賀田	三日市	南花台	高向	天野	計
図書館	公民館へ	10,598	3,698	2,344	4,337	7,499	13,678	1,331	2,118	45,603
館	図書館へ	782	529	401	547	629	831	388	394	4,501
	計	11,380	4,227	2,745	4,884	8,128	14,509	1,719	2,512	50,104

#### 公民館蔵書数

一般書蔵書冊数	児童書蔵書冊数
30,430	30,936

### 団体貸出での集配送の実績

	配送件数	配送冊数	返送件数	返送冊数	合計件数	合計冊数
小学校	52	3,072	53	3,641	105	6,713
中学校	7	99	2	71	9	170
放課後児童会	87	4,432	73	4,198	160	8,630
幼稚園・保育所	9	370	8	411	17	781

放課後児童会への夏休みおたのしみパック(定期貸出)及びえほんのひろばでの貸出を除く。

#### (3) 事業の評価(決算成果報告書における評価)

妥当性	有効性	Α
-----	-----	---

### 4 . 自動車文庫事業【継続事業】

### (1) 事業の目的

図書館・公民館図書室の利用が困難な地域住民に、身近な図書館サービスを提供する。

#### (2) 平成 26 年度の実績

市内全域での図書館サービスを目指し、市内に23箇所のステーションを設け、自動車文庫による巡回を行った。

自動車文庫利用の利便性向上への取り組み

図書館・公民館図書室遠隔地の市民に対しても利便性と読書環境の向上・充実を図るため、貸出・返却の受付のほか、予約・リクエスト申込の受付や、巡回用ノートパソコンを利用した蔵書検索も行い、利用者への速やかな図書館資料情報の提供を行った。

自動車文庫利用促進への取り組み

自動車文庫利用促進のため、ステーションの近隣自治会にPRチラシの送付を行った。 自動車文庫蔵書状況 自動車文庫の利用者層を考慮しながら、適切な蔵書体系の構築を図った。

### 自動車文庫蔵書数

一般書蔵書冊数	児童書蔵書冊数
8,844⊞	9,310冊



【高齢者や子育て世代の読書環境を支える自動車文庫】

### (3) 事業の評価 (決算成果報告書における評価)

妥当性 A	効率性	А	有効性	Α
-------	-----	---	-----	---

#### (参考)河内長野市立図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針

図書館法の精神に基づき、誰もが気軽に安心して利用できる市民生活に役立つ図書館をめざして、市民の皆さんとともに積極的な図書館運営を進めるため、河内長野市立図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針をつぎのとおり定めます。

- ・図書館機能の充実を目的に児童サービスやレファレンスサービスを始めとする各種サービスの向上を図ります。
- ・「読書のまち河内長野」実現を目的に図書館や公民館図書室の資料を整備充実し、その利用を促進します。
- ・郷土歴史資料や行政資料の収集保存を進め、その普及啓発と活用を図ります。
- ・読書活動を推進し、子どもたちや市民の読書習慣の定着化を図ります。
- ・図書館を利用することで市民自らの課題が解決できるよう、図書館資料の活用を促進します。
- ・市民の協力を得てより良い図書館サービスを提供するため、ボランティア活動の機会、場所の 提供やボランティア講座の実施に努めます。
- ・図書館司書及びその他の職員の資質・能力の向上を図るため、継続的・計画的な研修の実施等に努めます。
- ・安全で安心な図書館の読書環境を維持します。

### 今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

高度情報化に合わせた図書館の役割を見据えて、図書館資料に限定されない情報をより一層入手できるようにするため、ホームページの充実をはじめメールマガジンの発信やオンラインデータベースの利活用を進める。

限りある資料の有効活用を図るため、全体の蔵書整備計画の策定を行うとともに、市内全域への図書館サービス提供のため、図書館と公民館、自動車文庫等のネットワークの見直しと維持・ 継続に取り組む。

また、幼稚園・保育所等による資料集配送の利用促進を図るため、普及啓発を行う。

郷土歴史資料の保存修復を進めるとともにその魅力を講座や展示などを通して市民に伝えることで郷土の歴史の奥深さを知る契機を提供する。

平成 26 年度に引き続き「図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針」に基づいた点検・評価による図書館運営に取り組む。

# 4.成人の教育・学び

重点目標 10 子どもたちや市民の読書活動の推進

### 【目標の方針】

読書活動を推進し、子どもたちや市民の読書習慣の定着化を図ります。

市民自らの課題が解決できるよう、図書館資料の活用を促進します。

市民の協力を得てより良い図書館サービスを提供するため、ボランティア活動の機会、場所の提供やボランティア講座の実施に努めます。

担当:図書館

### 【取組内容】

「河内長野市第2次子ども読書活動推進計画」(平成23年度~平成27年度)に基づき関係機関との連携を図りながら子どもの読書活動を推進します。

子どもたちに絵本に親しむ機会を提供するため、学校や放課後児童会などで「えほんのひろば」 の巡回展を実施します。

図書館資料の利用を促進するため、生活に役立つ図書館講座、児童を対象とした利用者教育講座 (資料の探し方等)の開催や多様なテーマ展示を行います。

子どもたちや市民の読書活動の推進を図るため、地域、学校やボランティア等と連携し、おはなし会などを実施します。

ボランティア活動の充実を支援するため、読み聞かせボランティア講座やスキルアップ講座を実施します。

### 平成 26 年度の取り組み及び成果

「河内長野市第2次子ども読書活動推進計画」に基づき、学校やボランティアなど関係機関との 連携を図りながら、着実に子ども読書活動を推進した。

キックスのほか三日市幼稚園、市内全小学校及び3中学校にて「えほんのひろば」巡回展を実施し、子どもたちに絵本に親しむ機会を提供した。

「生活に役立つ図書館講座」のほか、創業・教育費に関するセミナーも開催した。

また、小学生向けには夏休みに図書館での資料探し方体験や、図書館に関しての知識を学ぶクイズを行い、展示についても季節や時事に合わせた児童向け・中高生向け・一般向けのテーマ展示及び市役所各課の実施イベントとのタイアップ展示、図書館所蔵の郷土資料の展示など多様な展示を行い、図書館資料の利用促進に取り組んだ。

読み聞かせボランティアとの協働を進め、図書館において定期的におはなし会を実施した。また、ボランティアによる地域文庫の活動をサポートするため、団体貸出を積極的に行った。

また、親と子のふれあいや赤ちゃんの図書館デビューとなる「赤ちゃんタイム」、4カ月児健診での「ブックスタート事業」における絵本の読み聞かせの実演などにおいても協働を進めた。

他に、障がい者の読書環境の改善を目的に対面朗読・音訳・点訳の各ボランティアにより、朗読や録音図書・点字図書の製作を行った。

読み聞かせボランティア活動の充実を図るための講座を入門編、スキルアップ編、フォローアップ編に分けて実施した。

#### 各事業の実績等

### 1.読書振興事業【継続事業】

#### (1) 事業の目的

講座や講演を通して市民に読書の楽しさを知ってもらう。

図書館になじみのない人にも足を運んでもらう機会をつくる。

### (2) 平成 26 年度の実績

子ども読書の日「おはなしウォッチング」、読書週間「おはなしウォッチング」(参加人数:延べ76人)

「おはなしのへや」を外から見えるようにして子どもも大人もおはなしなどを楽しんだ。

夏休み子ども科学教室「小さな生き物たちの行動のなぜ?」(全1回)(参加人数:8人) 身近にいる小さな生き物たちの行動を調べることを通して、科学への興味と読書意欲の増進 を図った。

「めざせ!図書館マスター」(4 回開催)、「図書館探検ブックにチャレンジ!」(配布冊数:465冊)

子ども達が本の探し方の基礎を身につけ、自分で本を探すことで図書館を身近なものに感じてもらった。

「えほんのひろば」

図書館所蔵の絵本を学校等へ持参し、図書館とはひと味違う「えほんの世界」を楽しんだ。 キックスエントランス・三日市幼稚園のほか、市内全小学校と3中学校にも出張して開催した。

図書館歴史講座「知られざる河内長野の歴史」(全2回)(参加人数:延べ112人)・「古文書入門講座」(全5回)(参加人数:延べ227人)・文化遺産講座(全6回)(参加人数:延べ380人)

市史編修の際使用した郷土資料の古文書を活用して郷土歴史講座や古文書を読み解く入門講座を開催した。

また、市内の貴重な文化遺産を学ぶ講座も開催した。

「生活に役立つ図書館講座」、「図書館連携事業」(参加人数:延べ61人)

「あやしい投資話に気をつけろ!」と題した講座を開催したほか、日本政策金融公庫の開催する創業・教育費に関するセミナーと連携して、関連図書の展示を行うなど、生活に役立つ情報を提供した。(計3回)

「二市図書館連携講座」(全2回)(参加人数:延べ63人)

広域相互利用協定を結ぶ近隣市との連携を深め、今後の利用促進を図るため、両市の重要 文化財を学ぶ連続講座を富田林市立金剛図書館と共催で開催した。

「赤ちゃんタイム」他の開催

上記講座のほか、親と子のふれあいや赤ちゃんの図書館デビューとなる「赤ちゃんタイム」、市民から提供を受けた本・図書館や公民館図書室などの除籍本の「図書リサイクルフェア」などを開催した。

# (3) 事業の評価(決算成果報告書における評価)

### 2.図書館ボランティア活動推進事業【継続事業】

#### (1) 事業の目的

ボランティアのスキルアップ。

おはなし会、対面朗読などの充実を図る。

さわる絵本や録音図書などの資料を増やす。

#### (2) 平成 26 年度の実績

「読み聞かせボランティア講座」(全4回)(参加人数:延べ75人)

児童書に関する知識、選び方、読み聞かせの技術・知識の基礎を学んだ。

スキルアップ講座「グリム童話の固定概念を覆す解釈」(全2回)(参加人数:延べ60人) 子どもと本をつなぐ活動をするボランティアのスキルアップを目的に講座を開催した。

フォローアップ講座「絵本をもっと深く読み取るには」(全1回)(参加人数:55人)おはなし会の開催(全82回)(参加人数:521人)

読み聞かせボランティアとの協働でおはなし会を開催し、おはなしや読み聞かせ、わらべ うた等を楽しんだ。

ブックスタート事業への派遣(全18回)(派遣ボランティア 延べ29人)

保健センターの4か月児健康診査で行われるブックスタート事業に、絵本の読み聞かせの 実演を目的にボランティアを派遣し、617組に読み聞かせ等を行った。

対面朗読の実施

視覚障がい者等に希望の資料を朗読する対面朗読サービスを実施し、延べ109回の利用があった。

さわる絵本・布の絵本の制作

視覚等に障がいのある方でも楽しめる布の絵本をボランティアの協力により、2タイトル制作した。

夏休み高校生ボランティア

高校生ボランティアによる本の配架や整理と、傷んだ本の修理を行った。 2 人の参加があった。

#### (3) 事業の評価(決算成果報告書における評価)

妥当性
-----

#### 今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

平成27年度末に策定を予定している第3次子ども読書活動推進計画に基づき、引き続き読書 推進を担う人材の育成を進めるとともに、活用を図り、生涯にわたっての読書習慣を身につける きっかけづくりを進める。

図書館外での子どもへの読書推進の取り組みとして実施している「えほんのひろば」を小中学校のほか、幼稚園などでも引き続き継続する。

地域や市民の課題解決につながる知的拠点としての図書館を目指して、蓄積した市民からの調査相談受付事例の公開を継続実施することでレファレンスサービスの充実を図るとともに、市内諸施設への団体貸出については一層のPRを行い、本市の読書環境の向上に努める。

生活に役立つ様々な情報を提供する講座のほか、近隣自治体とも連携した講座を行い、広く市民の関心を高めることで図書館資料の利用促進を図る。

ボランティア活動の場として、図書館内外での活動の場を広く提供するとともに技術の維持・ 向上につながる講座の開催や勉強会の実施などのサポートも進める。